

2024年度まちづくりネットモニター第3回調査結果
テーマ「SDGs（エスディーゼズ）の関心度について」



SDGsとは、深刻化する地球上の問題を、2030年までにより良くするために、国連で貧困、教育、気候変動など17のゴールと169のより具体的な目標(ターゲット)に集約した世界共通の目標です。

郡山市は「SDGs未来都市」として、様々な分野の人・情報・研究成果などが行き交う「知の結節点」としての強みを生かし、こおりやま広域圏に住むすべての方が「自分ごと」として将来世代のために行動できるようSDGsの達成に取り組んでいます。

市民の皆様方のSDGsへの関心や取組みを把握するとともに、今後のSDGsの推進に向けた参考とするためアンケートを実施しました。その結果についてお知らせします。

(政策開発課)

【調査概要】

- 調査期間 2024年5月17日(金)～5月26日(日) 10日間
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 411名 (男性 173名 女性 237名 不明 1名)
- 回答者数 354名 (男性 150名 女性 203名 不明 1名)
- 回答率 86.1%



郡山市ウェブサイト
SDGs未来都市こおりやま

【分析】

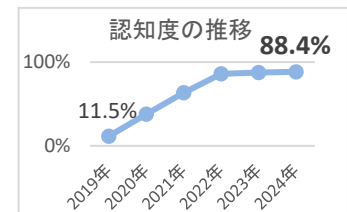
《回答者内訳》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	0	3	10	28	40	29	25	15	150
女性	2	7	29	63	55	37	9	1	203
不明	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	2	10	39	92	95	66	34	16	354

《問1 SDGsをご存知ですか?》

88.4%が「知っている」、11.3%が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答

認知度は、2019年の調査開始以降、一貫して上昇しているものの、頭打ちの傾向がみられる。



《問10 「こおりやまSDGsアワード」をご存知ですか?》

「知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計の割合が、70.9%と2020年の調査以来初めて7割を超えた。2020年の調査時点では37.6%であったが、約2倍に増えた。

《問20 SDGsの取組みをしている企業に就職したいと思いますか?》

20.9%が「とてもそう思う」、43.8%が「まあまあそう思う」と回答し半数を超えた。昨年の調査と比較し、4.3ポイント上昇した。

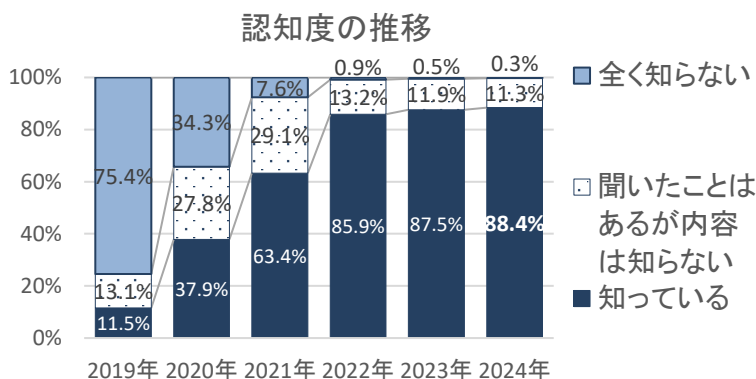
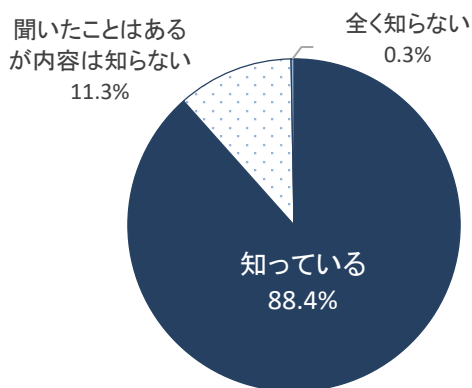
【考察】

- ・ 認知度及び関心度ともに頭打ちの傾向がみられるとともに、SDGsが重要だと思える割合が微減となった。関心がない理由として「何をすればよいのか分からない」「取り組んでもあまり意味がない」と回答した割合がそれぞれ25.0%であり、継続して周知を図る必要がある。
- ・ SDGs達成に取り組む市民、団体、企業等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」の認知度が年々増加しており、2020年と比べ約2倍に増加している。報道機関と連携した表彰式の開催や企業向けSDGsセミナーの開催等により積極的にPRした効果と考えられる。
- ・ SDGsの取組みをしている企業へ就職したい又は就職を薦めたいと回答した割合は64.7%となった一方、実際に所属している会社や学校でSDGsの取組みを行っているという回答した割合は44.5%と開きがみられた。引き続き企業向けにSDGsに取り組む意義などの周知が必要と考えられる。

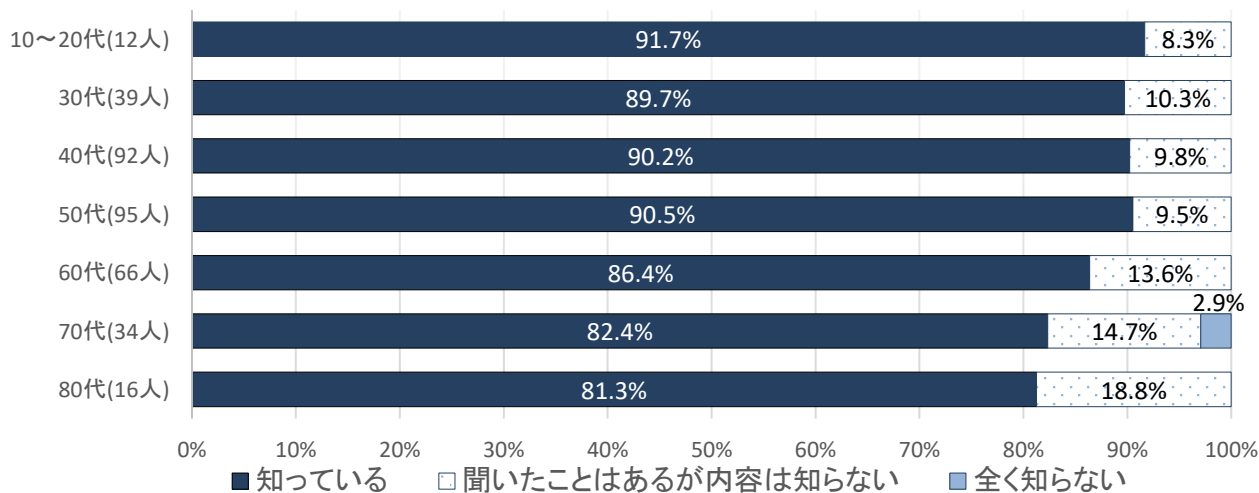
※割合(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
 ※10代は回答者が少ないため、「10～20代」としてまとめています。

第1章 SDGsの認知度について

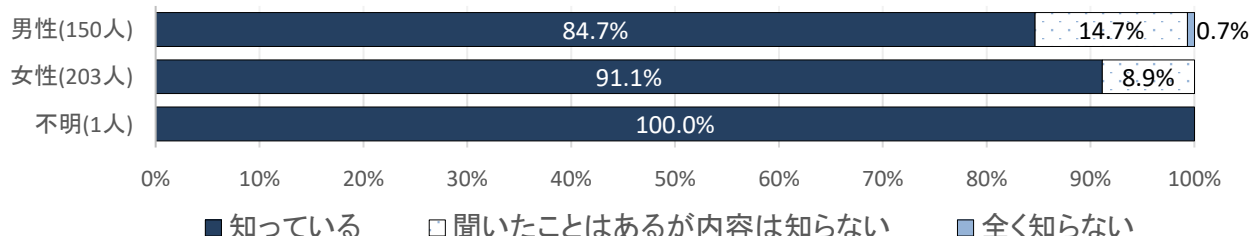
問1 SDGs (エスディーゼイズ) をご存知ですか？ (1つ選択) (回答者：354人)



年代別



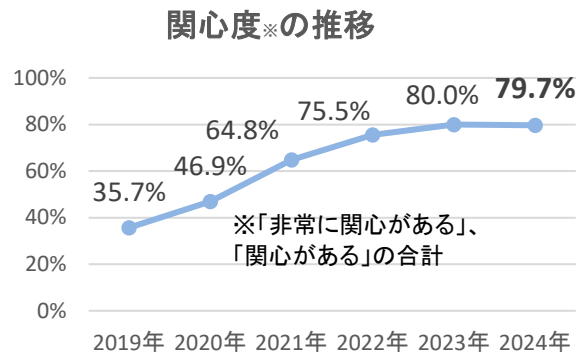
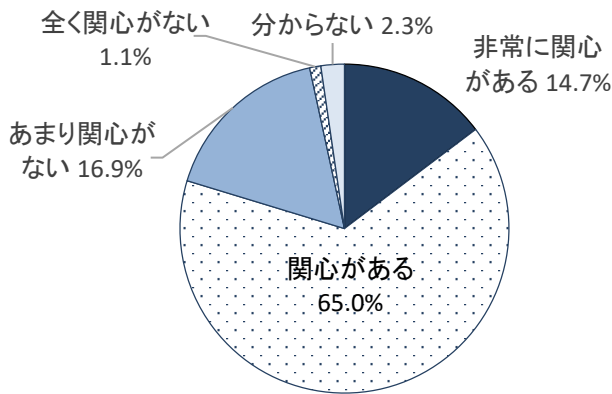
男女別



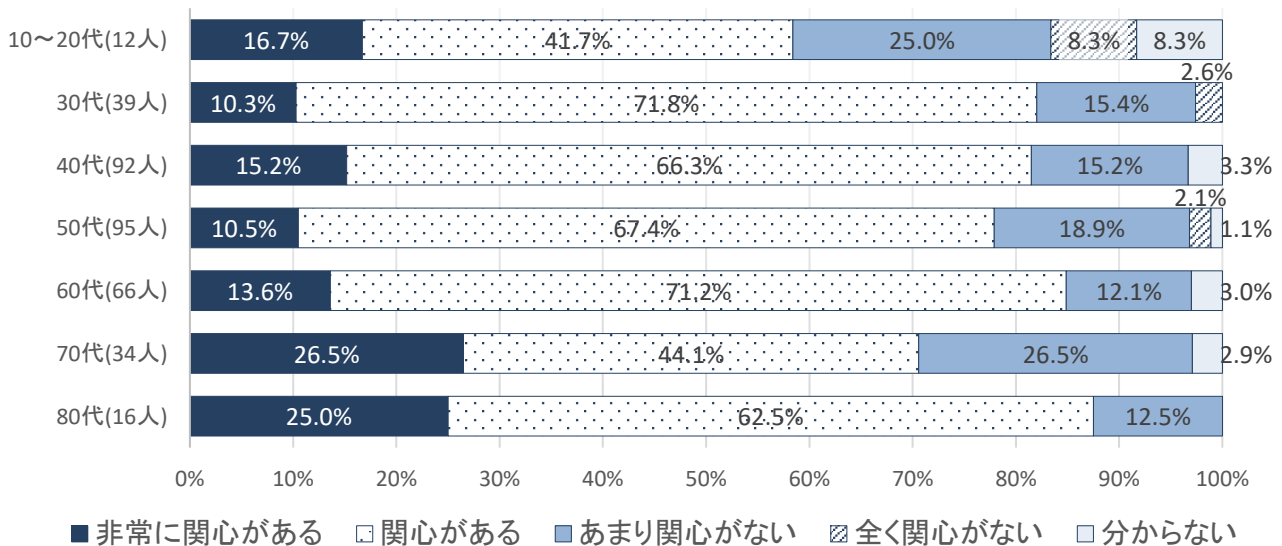
SDGsの認知度について、「知っている」と答えた割合は全体の88.4%。昨年度調査と比べると、認知度(知っている)は0.9ポイント上昇している。2022年度調査時点で、認知度は85.9%とSDGsが広く浸透しており、今回の調査において「全く知らない」と答えた人は354人中1人だった。
 年代別、男女別で認知度に大きな差はない。

問2 SDGsについてどの程度関心がありますか？（1つ選択）

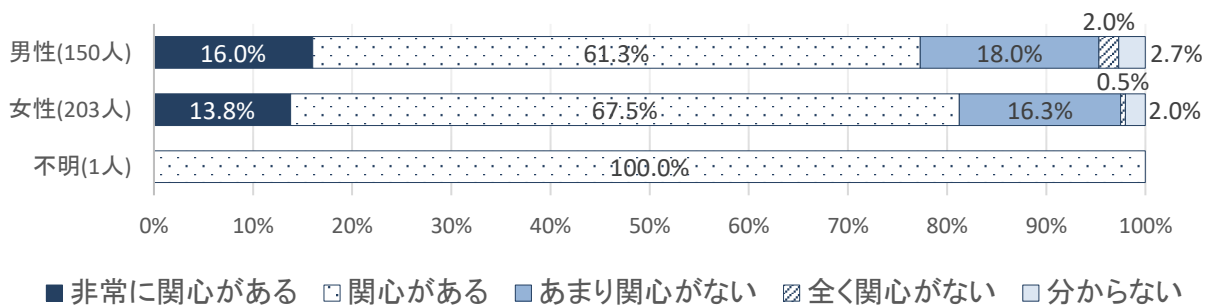
（回答者：354人）



年代別



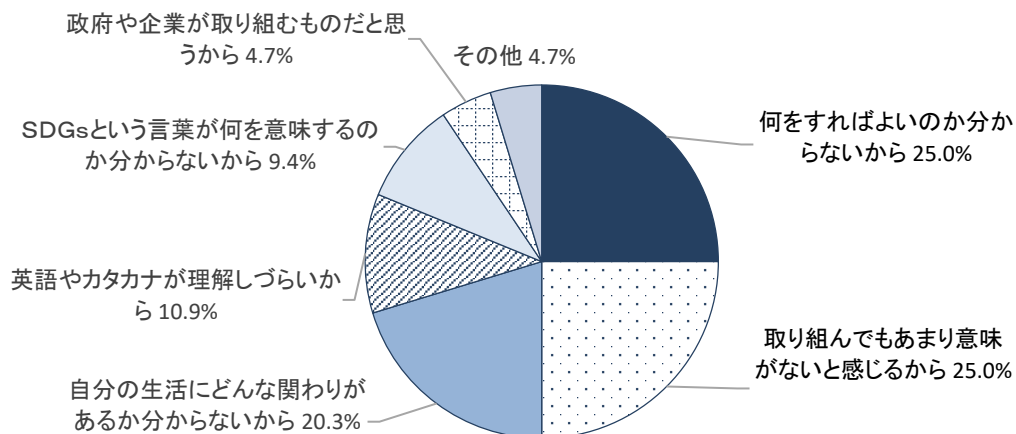
男女別



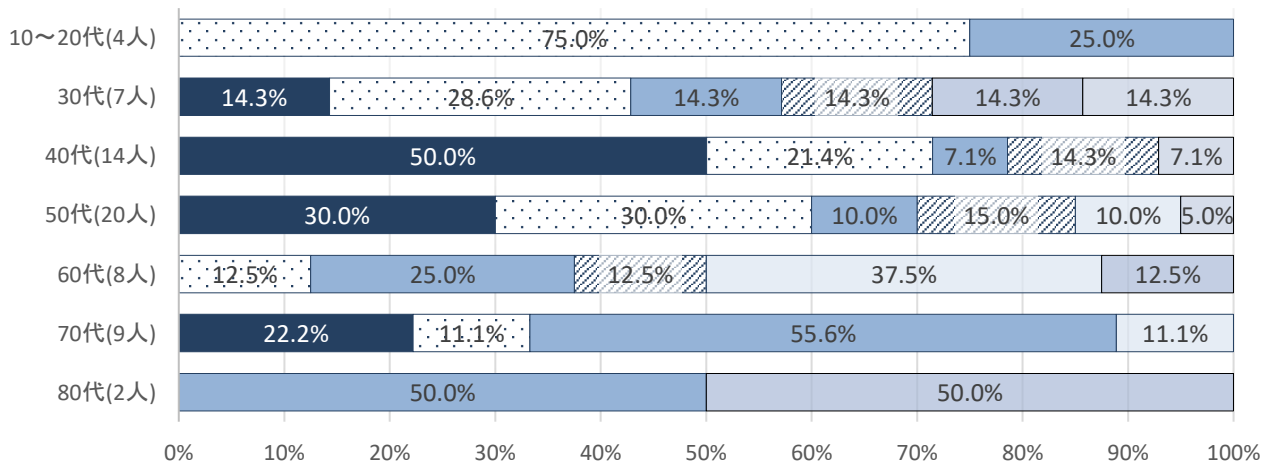
全体では、「非常に興味がある」と「興味がある」の合計の割合は計79.7%と昨年度調査並み。認知度と同様に、関心度の伸び率はこれまでと比べると小さくなっている。
 10～20代の「非常に興味がある」と「興味がある」の合計の割合は58.4%とほかの年代と比べて低くなっている。なお、昨年度調査時は75.0%であり、ほかの年代と大きな差はなかった。

問3 問2で「あまり関心がない」「全く関心がない」を選択した方にお伺いします。
SDGsに関心がない理由はなんですか？（1つ選択）

（回答者：64人）

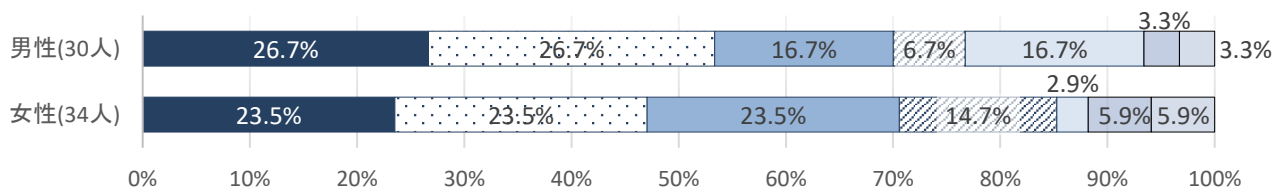


年代別



- 何をすればよいのか分からないから
- 自分の生活にどんな関わりがあるか分からないから
- SDGsという言葉が何を意味するのか分からないから
- その他
- 取り組んでもあまり意味がないと感じるから
- ▨ 英語やカタカナが理解しづらいから
- 政府や企業が取り組むものだと思うから

男女別



- 何をすればよいのか分からないから
- 自分の生活にどんな関わりがあるか分からないから
- SDGsという言葉が何を意味するのか分からないから
- その他
- 取り組んでもあまり意味がないと感じるから
- ▨ 英語やカタカナが理解しづらいから
- 政府や企業が取り組むものだと思うから

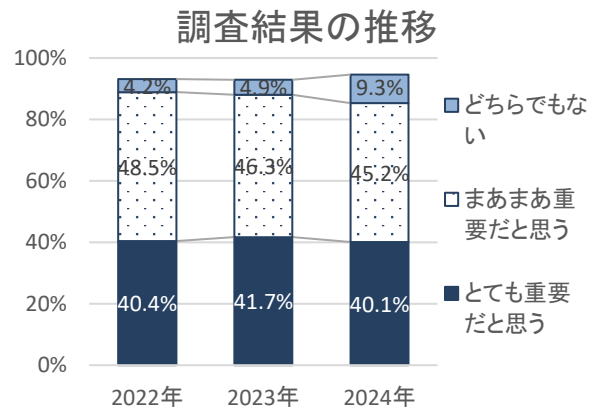
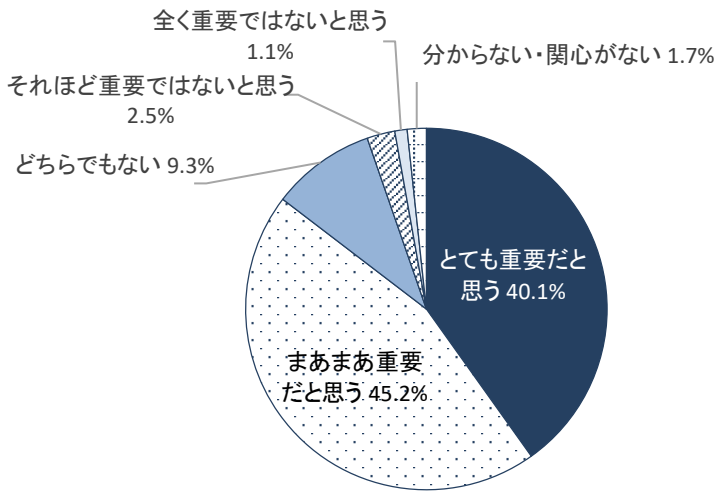
※ 「その他」を選択した方の主な意見

- ・ 関心を持って取り組むというより、当たり前のことだと思うので。
- ・ 今更改めて、英語を使って云うべきものではなく、日常生活上、自然であるべき。

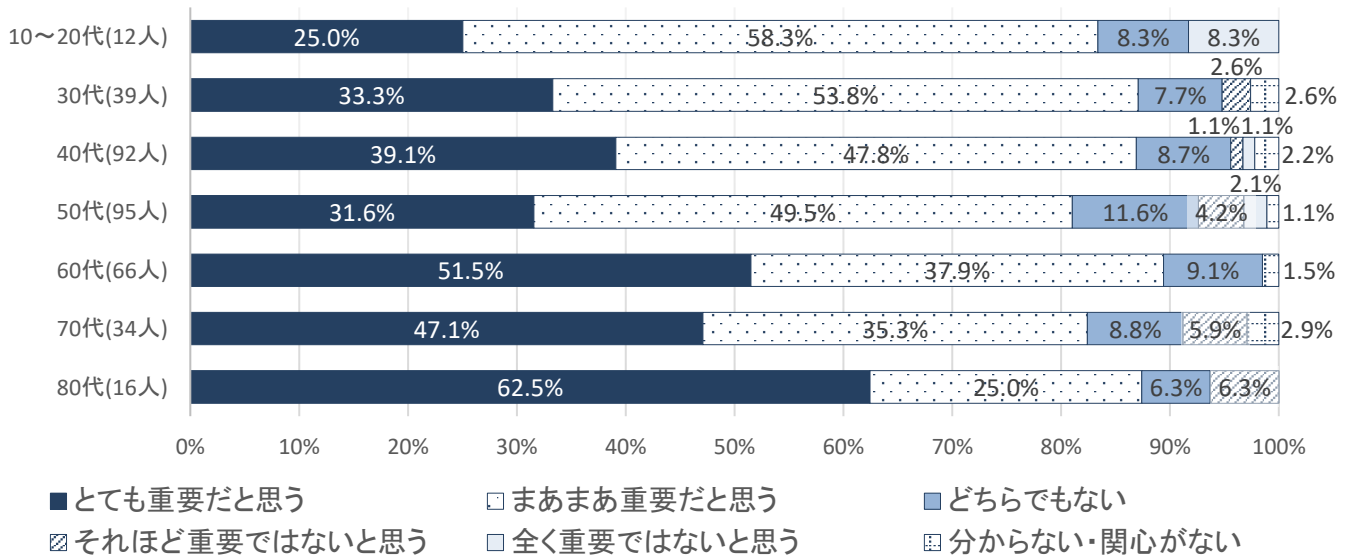
「何をすればよいのか分からないから」と「取り組んでもあまり意味がないと感じるから」がそれぞれ25.0%、「自分の生活にどんな関わりがあるか分からないから」が20.3%だった。
また、10～20代の75%が「取り組んでもあまり意味がないと感じるから」を選択した。ただし回答者が4人であることに留意する必要がある。

問4 SDGsは重要だと思いますか？（1つ選択）

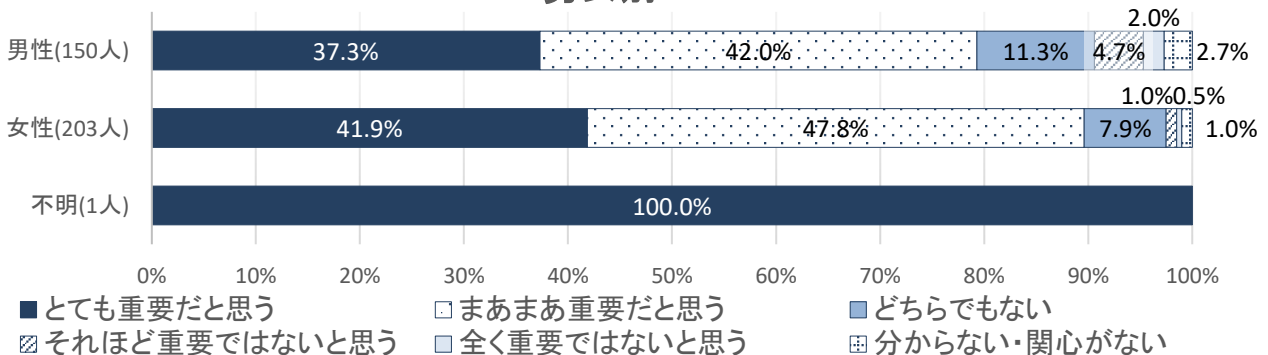
（回答者：354人）



年代別



男女別

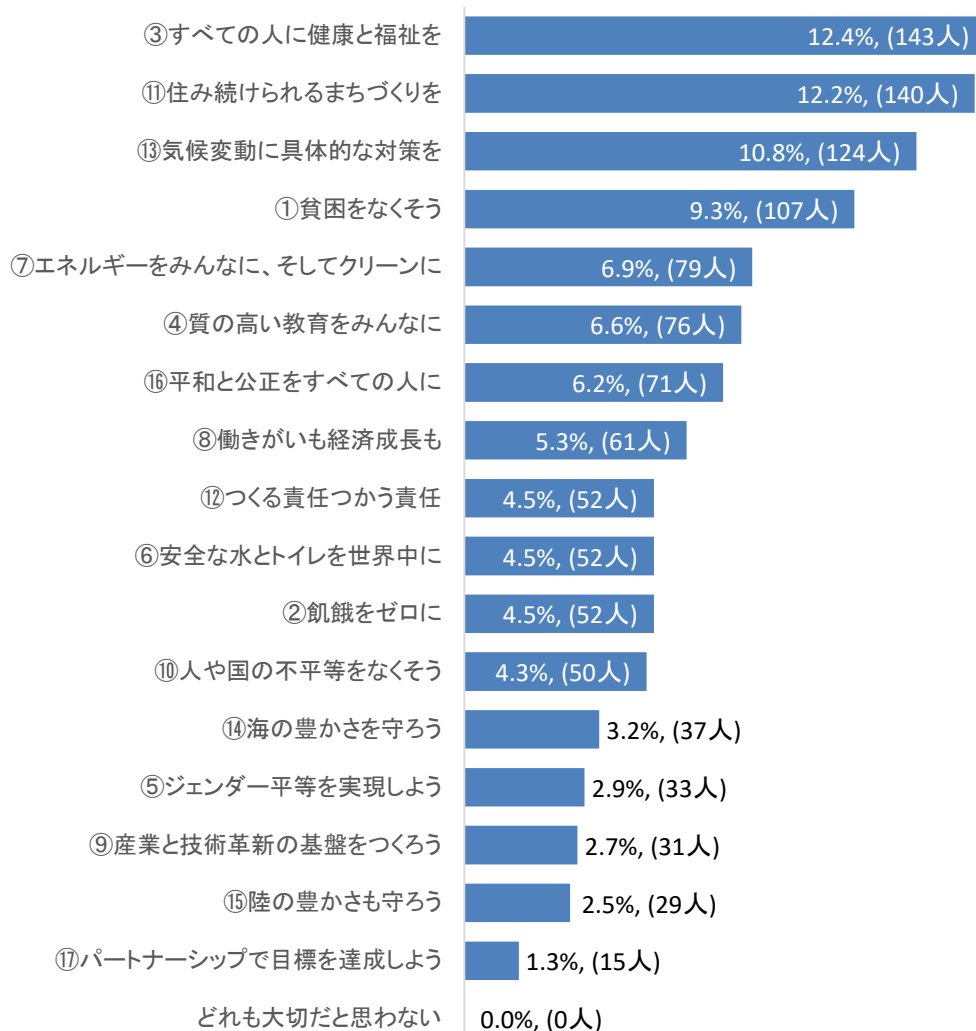


全体では、「とても重要だと思う」と「まあまあ重要だと思う」の合計の割合は85.3%、「それほど重要ではないと思う」と「まったく重要ではないと思う」の合計の割合は3.6%となっており、SDGsは重要だと考える人が9割弱である一方、推移をみると「どちらでもない」の割合が増えている。

男女別では、男性よりも女性のほうがSDGsは重要だと考えている傾向にある。

問5 SDGsの17の目標のうち、特に大切だと思う(関心がある目標)は何ですか？
(3つ選択)

(回答者：354人)



《推移》

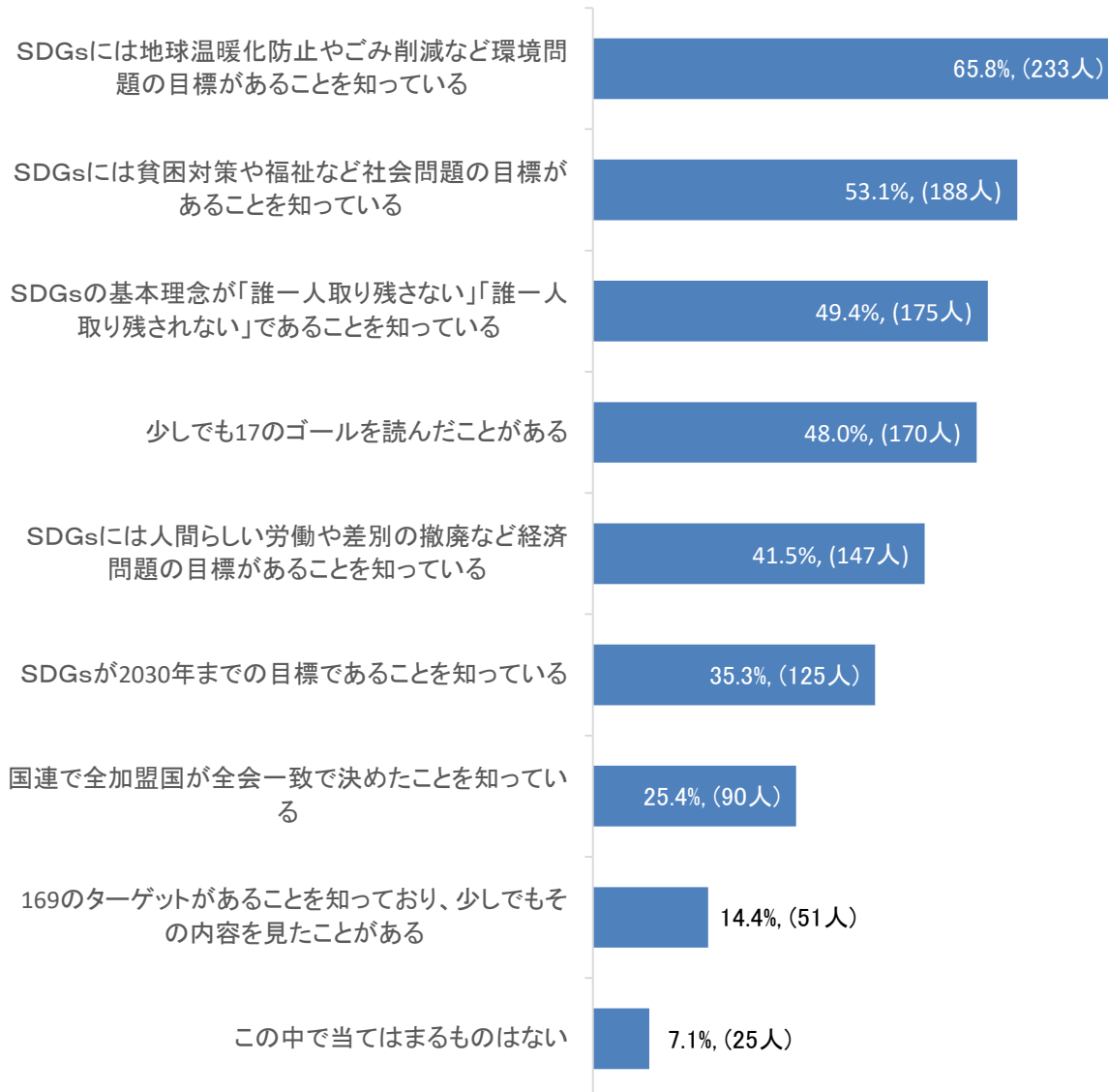
2024年得票数上位トップ5の過去の順位

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
③すべての人に健康と福祉を	1位	1位	1位	1位	2位	1位
⑪住み続けられるまちづくりを	2位	2位	2位	3位	1位	2位
⑬気候変動に具体的な対策を	10位	5位	4位	2位	3位	3位
①貧困をなくそう	4位	4位	3位	4位	4位	4位
⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9位	6位	5位	5位	5位	5位

「③すべての人に健康と福祉を」が最も多く、次いで「⑩住み続けられるまちづくりを」となっている。
ここ4年間の調査結果をみると、順位に多少の変動はあるものの、得票数上位5つに変わりはない。

問6 SDGsの内容についてどの程度知っていますか？（当てはまるもの全て選択）

（回答者：354人）

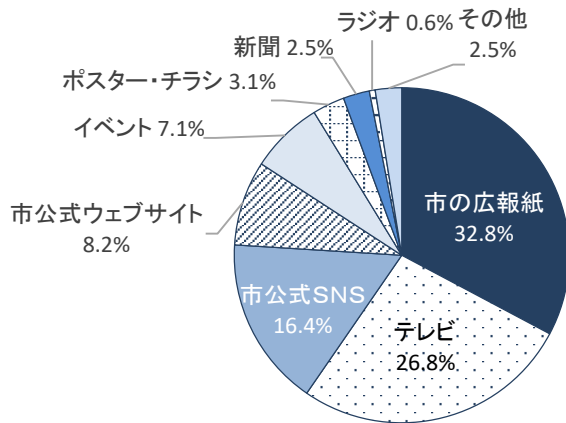


SDGsは「経済」「社会」「環境」の3つの側面があるが、その中でも「環境」「社会」の目標があることを知っている割合が比較的高かった。

169のターゲットには、SDGsのより深い理解につながる具体的目標が記載されているが、それを見たことがある割合は、わずか14.4%だった。ターゲットのさらなる周知が必要である。

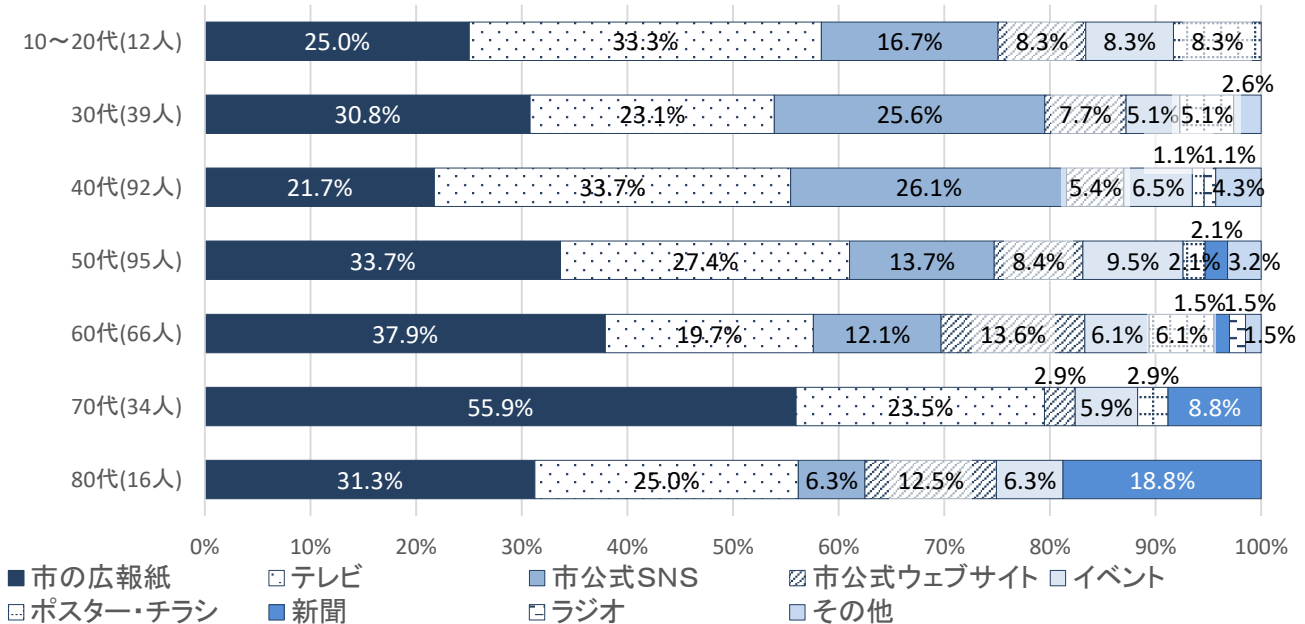
問7 郡山市がSDGsに関する情報を発信するに当たって、最も効果的なPRの方法は何だと思いますか？（1つ選択）

（回答者：354人）

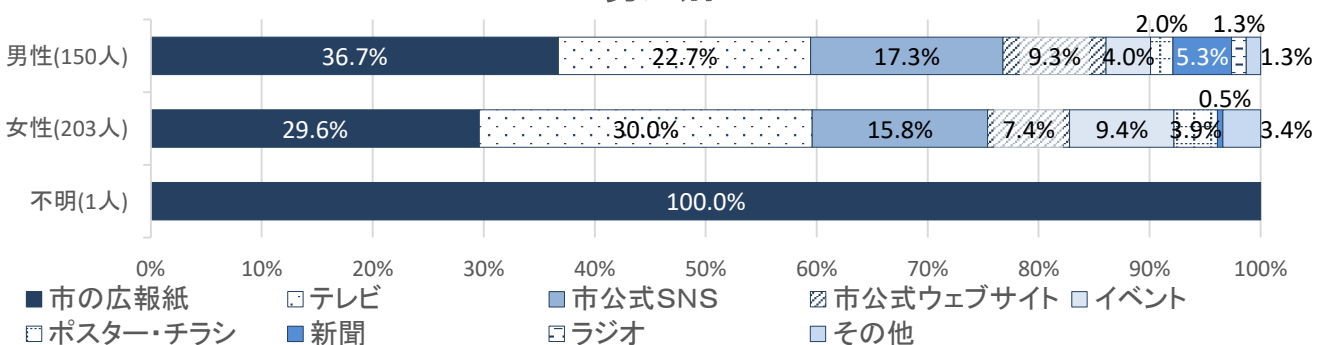


※SNS：Facebook、LINE、Xなど

年代別



男女別



※「その他」を選択した方の主な意見

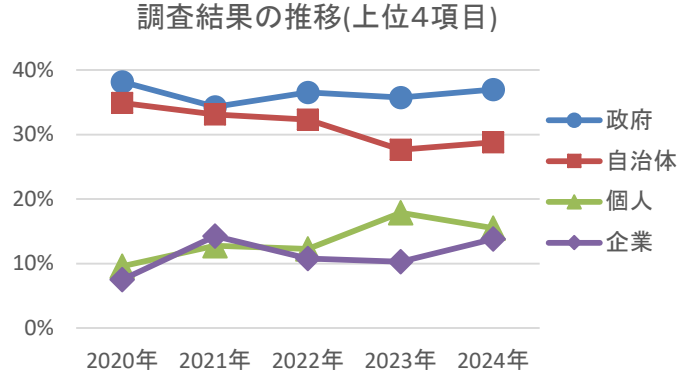
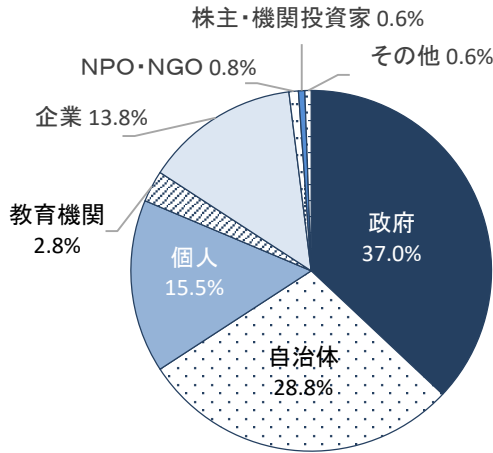
- ・ 宣伝カーや各学校、会社訪問など
- ・ 全ての媒体を効率よく利用することが最も効果的である。

全体では、「市の広報紙」の割合が32.8と最も高く、次いで「テレビ」26.8、「市公式SNS」16.4となっている。（前年度は、「テレビ」の割合が41.2と最も高く、次いで「SNS」23.3、「市の広報紙」12.7であった。）
年代別では、60代までは全体と同じ傾向だが、70代以上では「SNS」の割合は低い。

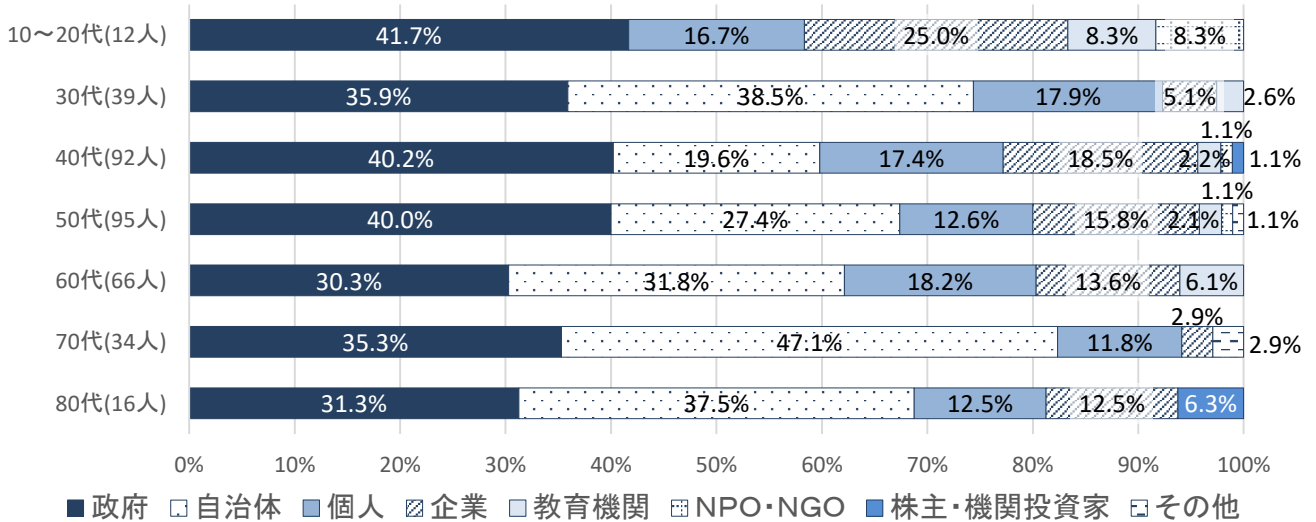
第2章 SDGsに関する取組みについて

問8 SDGsの達成に向けて、誰が主に行動したほうが良いと思いますか？（1つ選択）

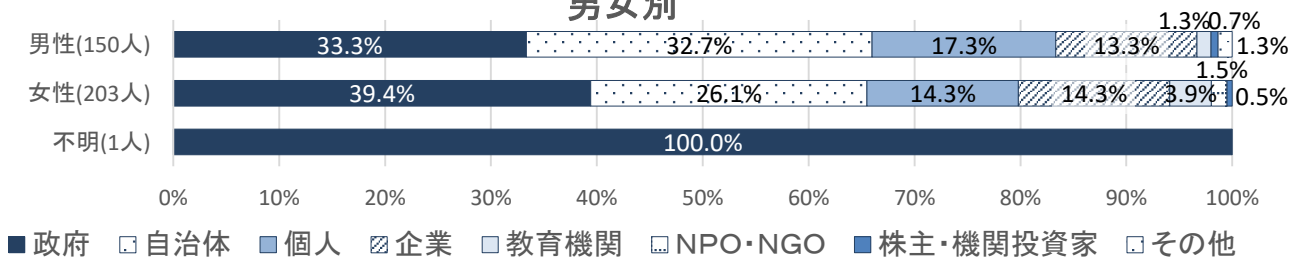
（回答者：354人）



年代別



男女別



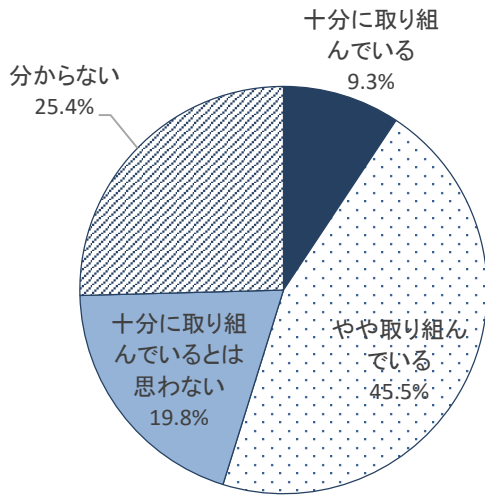
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・項目にもよるが世界中の全ての人々がやるべきである。

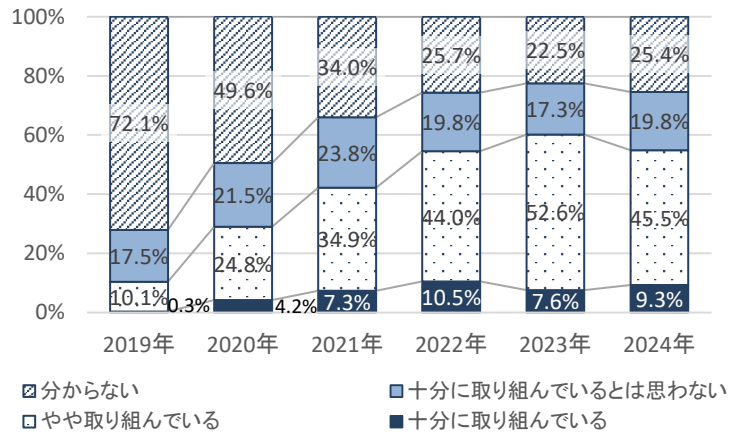
全体では、「政府」と「自治体」の割合が高く、合計で65.8%を占めており、行政が主に行動するべきと考える人が多いことが分かる。一方で過去の調査結果の推移をみると、「政府」は横ばい、「自治体」は減少傾向にあるのに対し、「個人」や「企業」が上昇傾向にある。年代別では、30代及び60代以上が「自治体」を選択している割合が高い。

問9 郡山市のSDGsへの取組みについてはどう思いますか？（1つ選択）

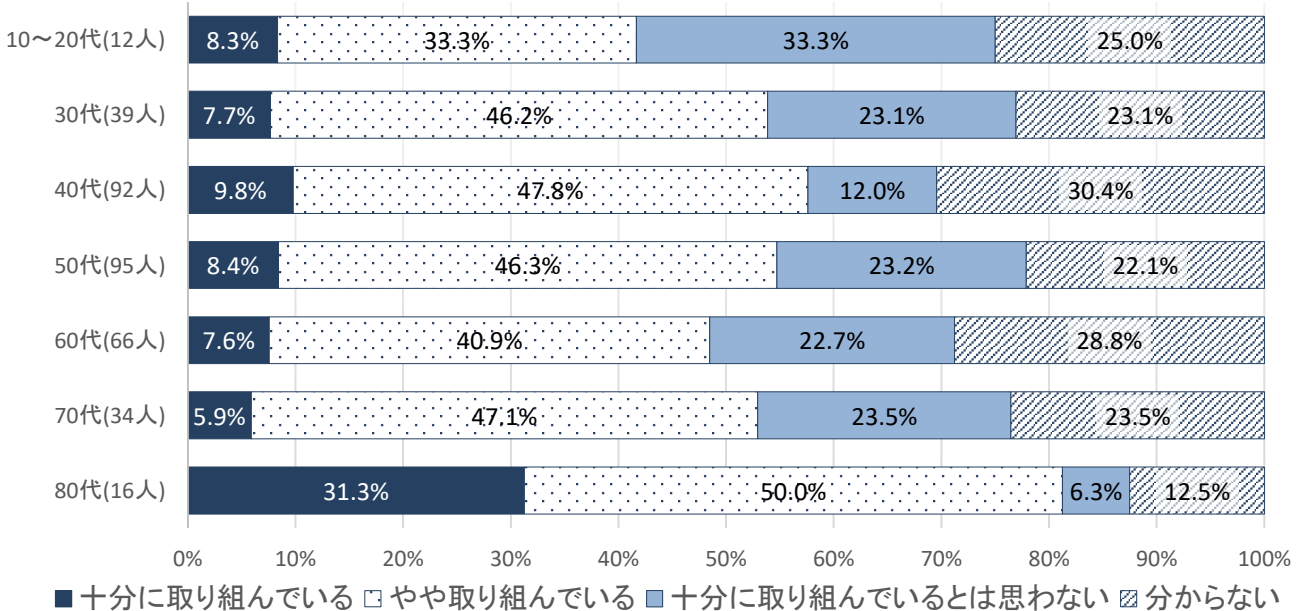
（回答者：354人）



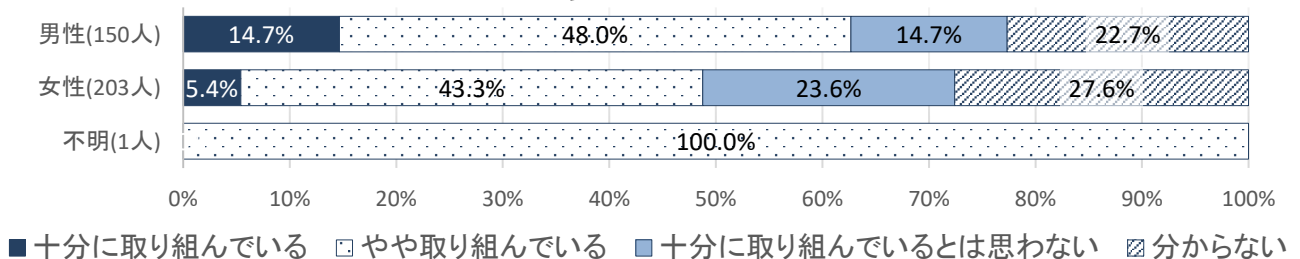
調査結果の推移



年代別

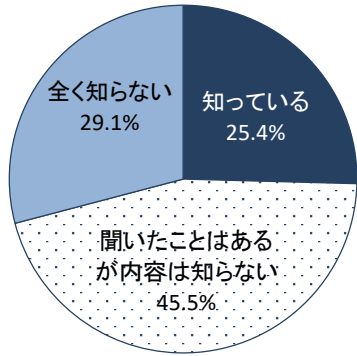


男女別

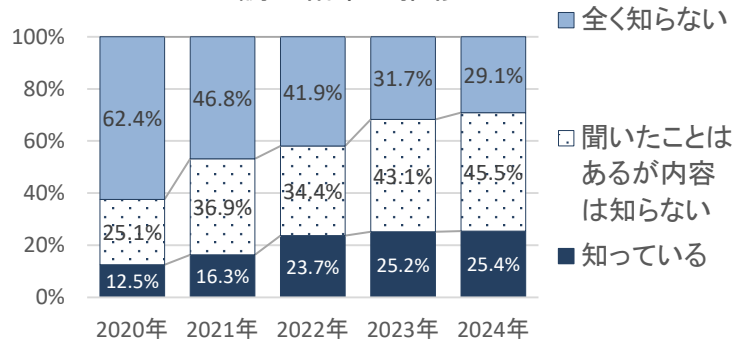


全体では「やや取組んでいる」が最も高い割合を占めているものの、前回調査と比べると、「十分に取組んでいる」と「やや取組んでいる」の合計は5.4ポイント低下している。
 年代別で見ると、80代において、「十分に取組んでいる」の割合が他の年代に比べて高くなっている一方で、10～20代では「十分に取組んでいるとは思わない」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

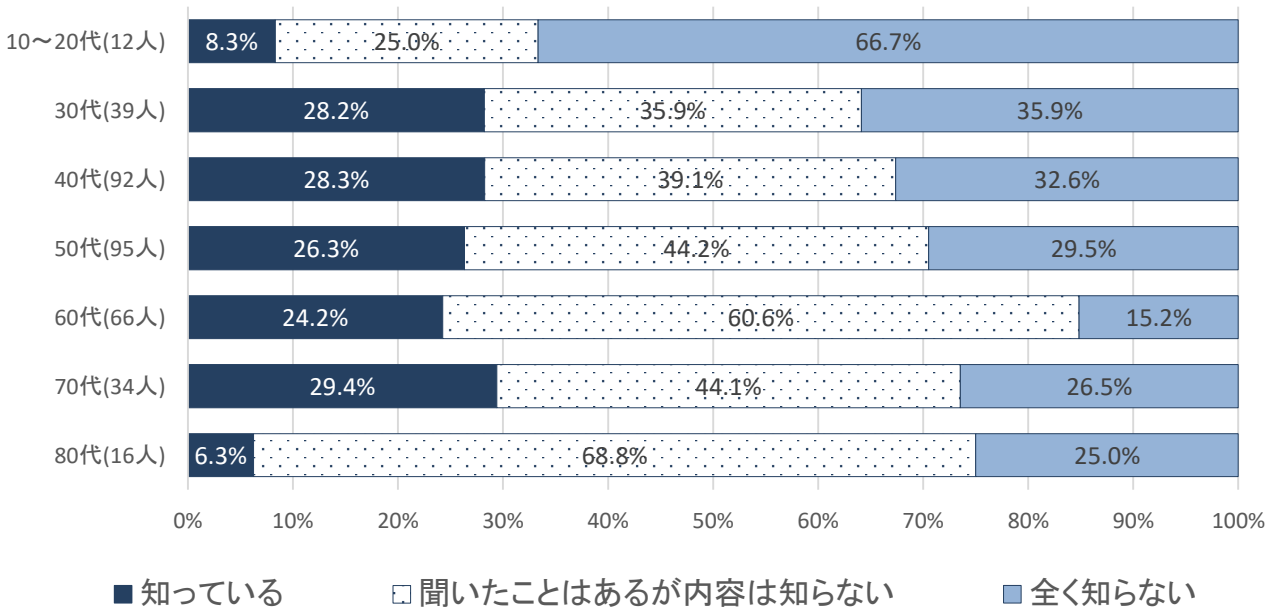
問10 こおりやま広域圏内において、「SDGs体感未来都市」の実現に向け、特に優れた取り組みを進めている市民、団体等を表彰する「こおりやまSDGsアワード」をご存知ですか？（1つ選択）
（回答者：354人）



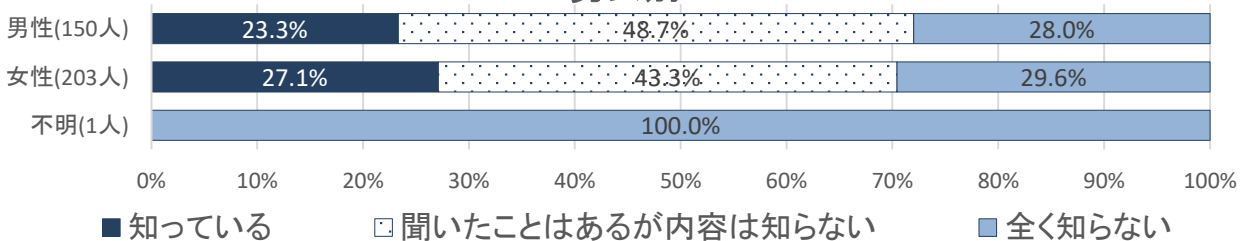
調査結果の推移



年代別



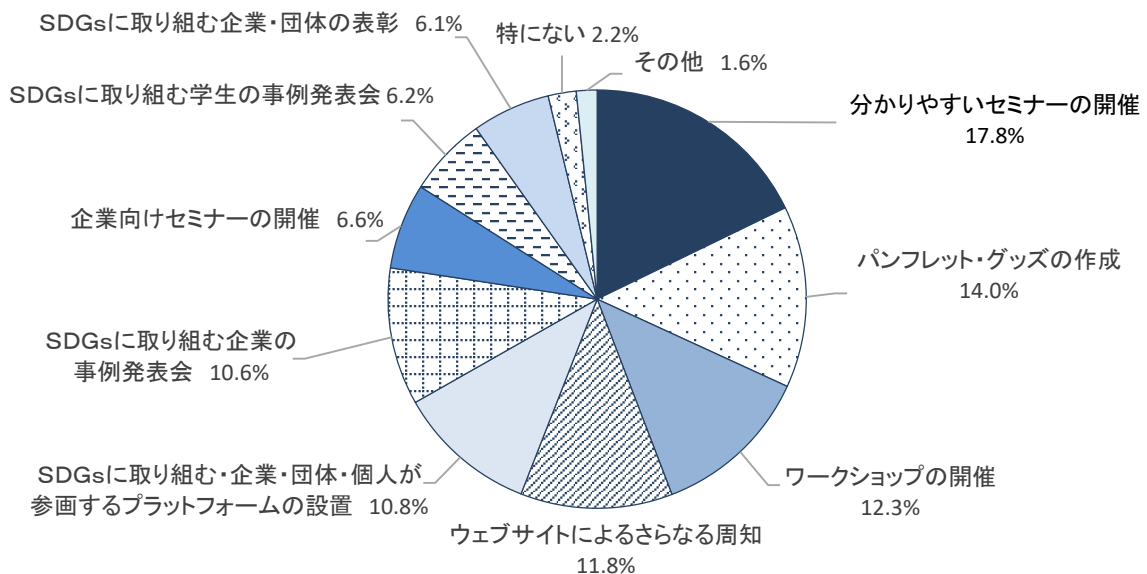
男女別



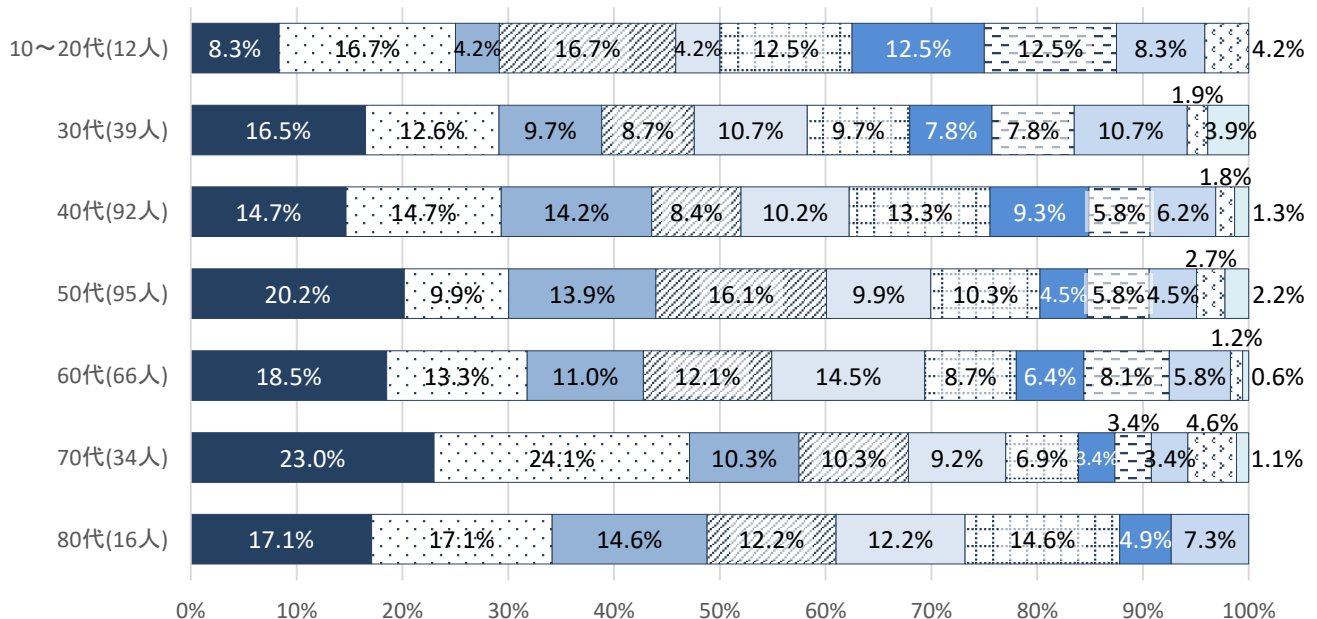
「こおりやまSDGsアワード」の認知度について、「知っている」割合は25.4%、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合は45.5%となった。これら2つの割合は年々上昇しており、報道機関と連携したこおりやまSDGsアワード表彰式の開催や、企業向けSDGsセミナー等により「こおりやまSDGsアワード」を積極的にPRした効果と思われる。

問 11 あなたがSDGsについて取り組むために、どのようなものがあったら良いですか？
(3つ選択)

(回答者：354人)

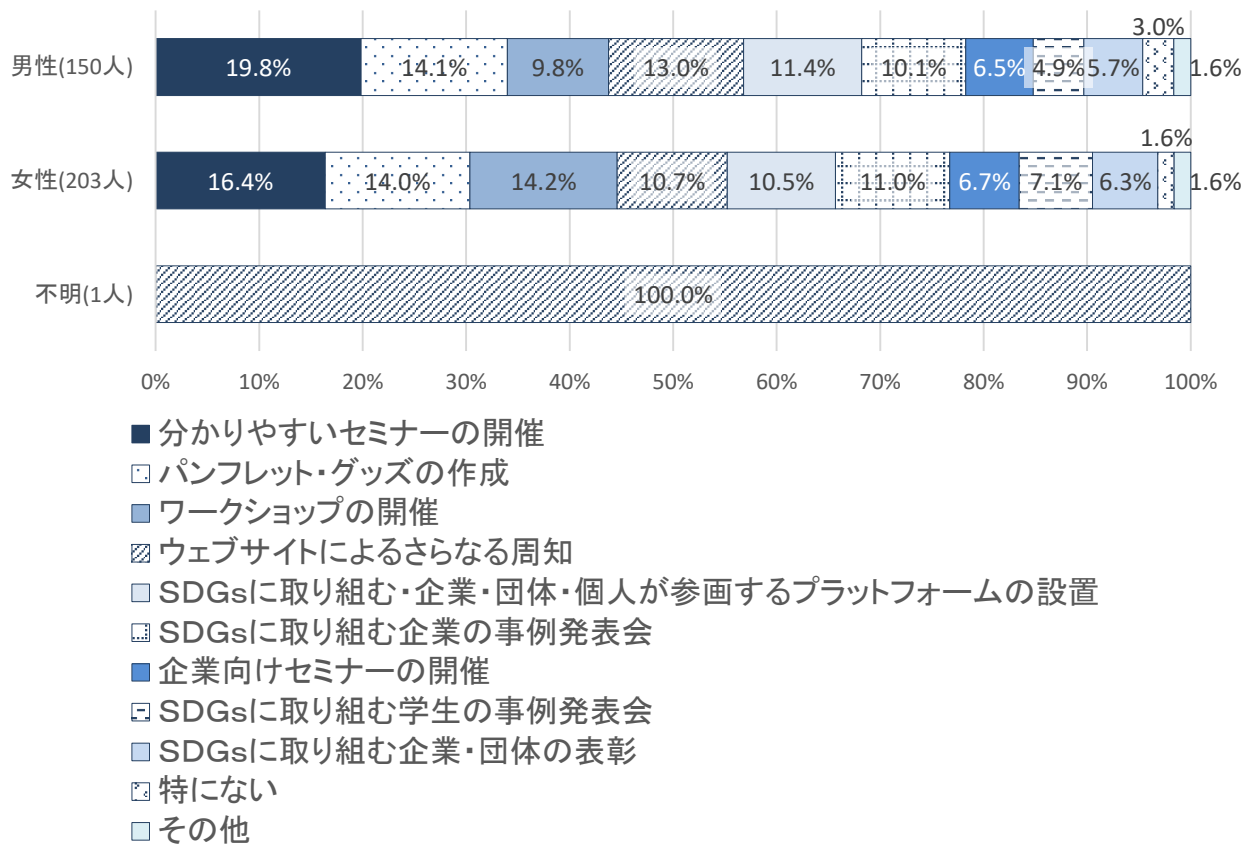


年代別



- 分かりやすいセミナーの開催
- ▨ パンフレット・グッズの作成
- ワークショップの開催
- ▨ ウェブサイトによるさらなる周知
- ▨ SDGsに取り組む・企業・団体・個人が参画するプラットフォームの設置
- ▨ SDGsに取り組む企業の事例発表会
- 企業向けセミナーの開催
- ▨ SDGsに取り組む学生の事例発表会
- ▨ SDGsに取り組む企業・団体の表彰
- ▨ 特にない
- ▨ その他

男女別



※「その他」を選択した方の主な意見

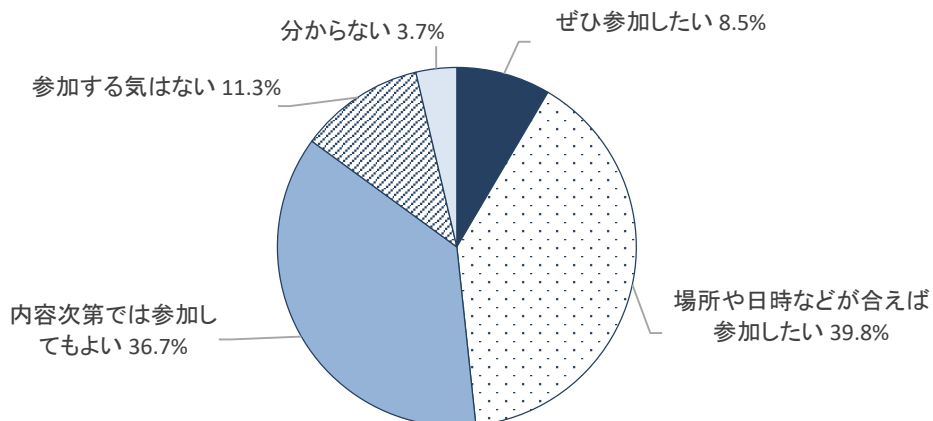
- ・SDGsに取り組むとポイントがたまり、特産品と交換できるキャンペーン
- ・市民参加型のゲーム感覚でポイントやプレゼントがあるアプリやネットを利用した催し
- ・SDGsに取り組んでいる企業の公表
- ・小中高校のカリキュラムに盛り込む
- ・テレビ番組での活動の紹介

「分りやすいセミナーの開催」が17.8%と最多で、次いで「パンフレット・グッズの作成」が14.0%となっている。

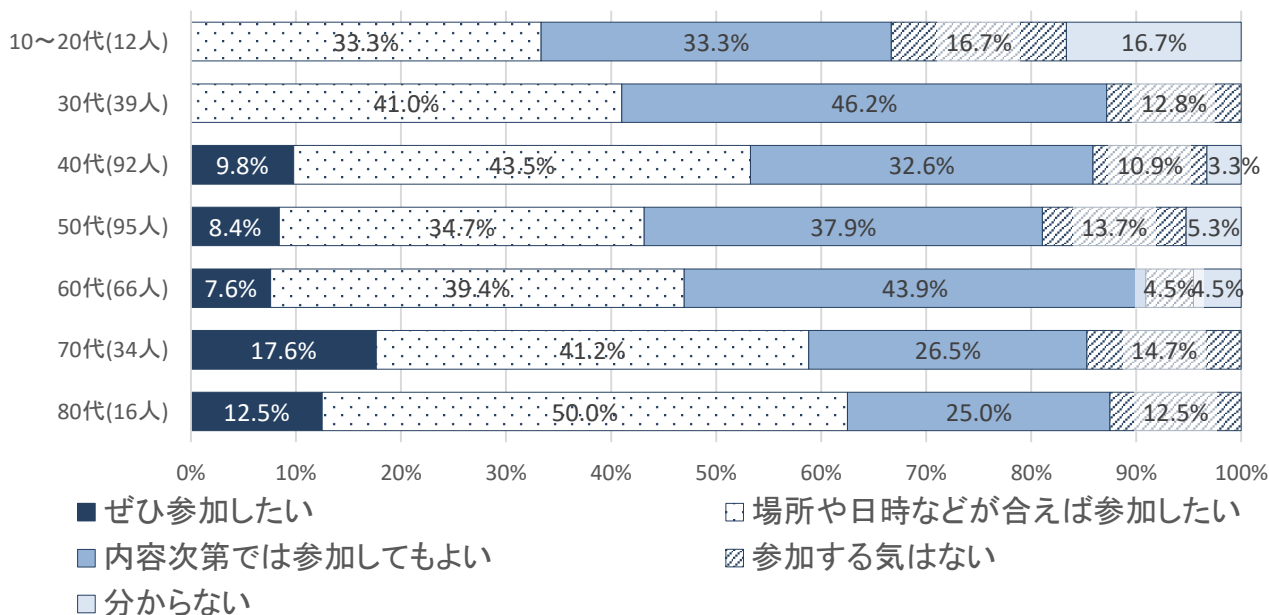
年代別で見ると、10～20代や70代以上において「パンフレット・グッズの作成」の割合が他の年代に比べ高く、啓発物に一定の需要があると考えられる。

問12 セミナーやワークショップなどのSDGsを学ぶイベントが市内で開催された場合、参加しますか？（1つ選択）

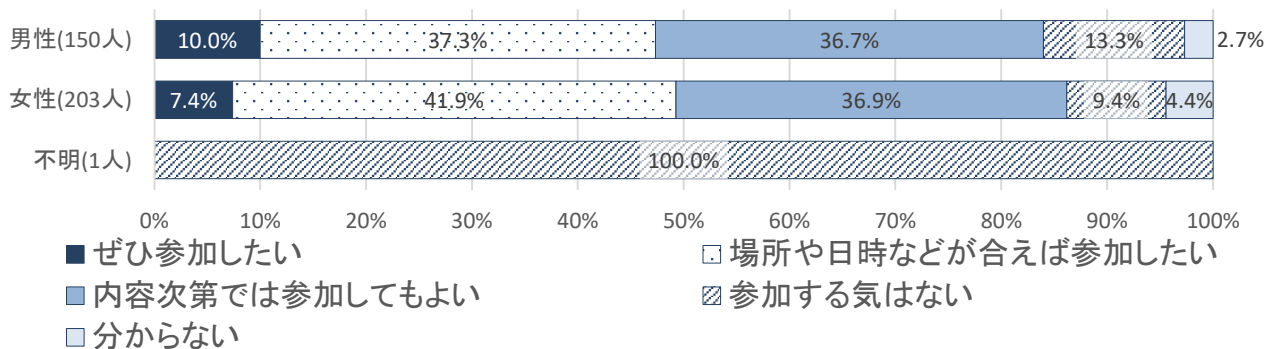
（回答者：354人）



年代別



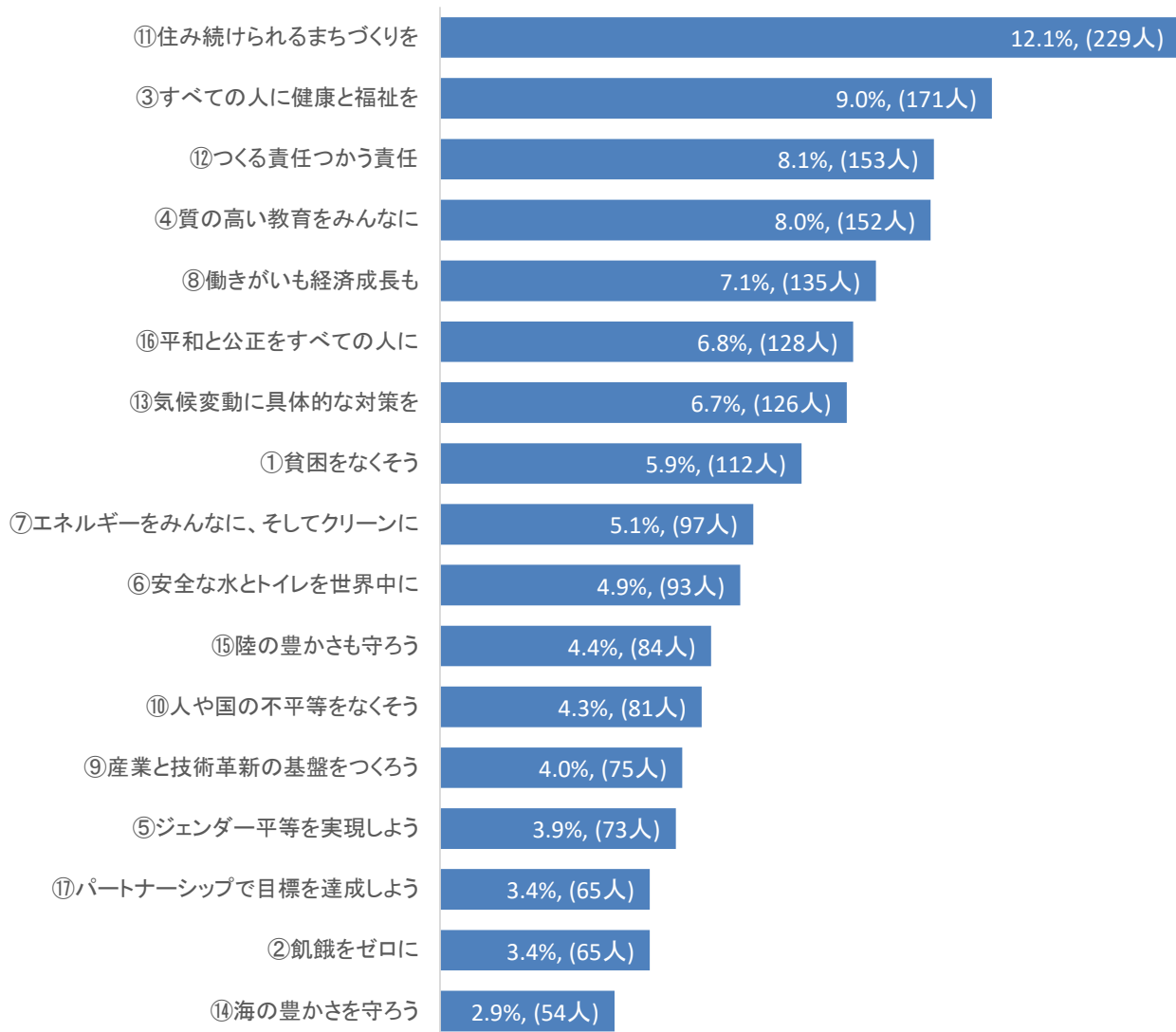
男女別



「ぜひ参加したい」「場所や日時などが合えば参加したい」の合計の割合が48.3%となっており、「参加する気はない」の割合は11.3%と低くなっている。
年代別では、比較的高い年代の割合が高くなっている。

問13 郡山市で推進してもらいたいゴールは何ですか？(当てはまるもの全て選択)

(回答者：354人)

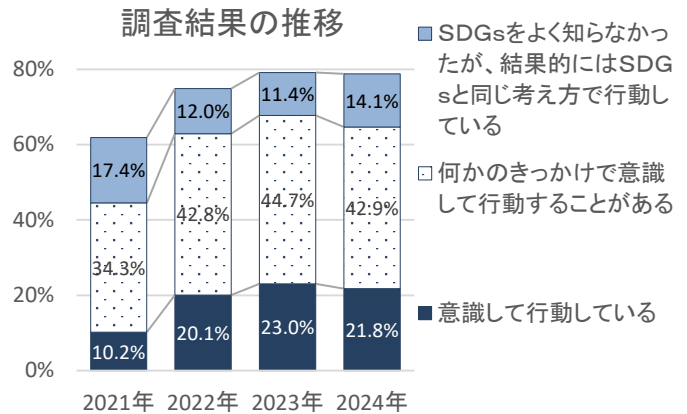
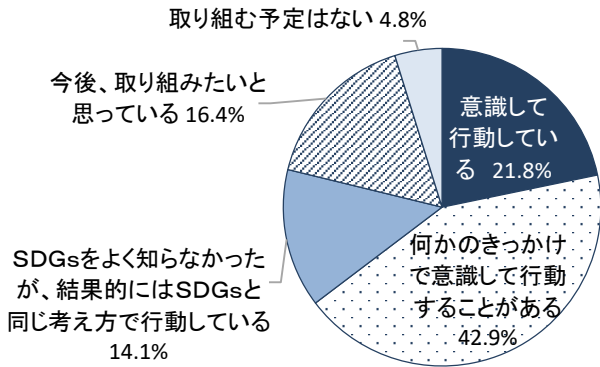


上位の2つは「⑪住み続けられるまちづくりを」と「③すべての人に健康と福祉を」となっており、問5で尋ねた「17の目標のうち特に大切だと思う目標」と同様であるが、第3位は「⑫つくる責任つかう責任」となっており、郡山市のごみ問題に関心があるものと思われる。
 また、第4位は「④質の高い教育をみんなに」、第5位は「⑧働きがいも経済成長も」と行政の役割が期待されている。

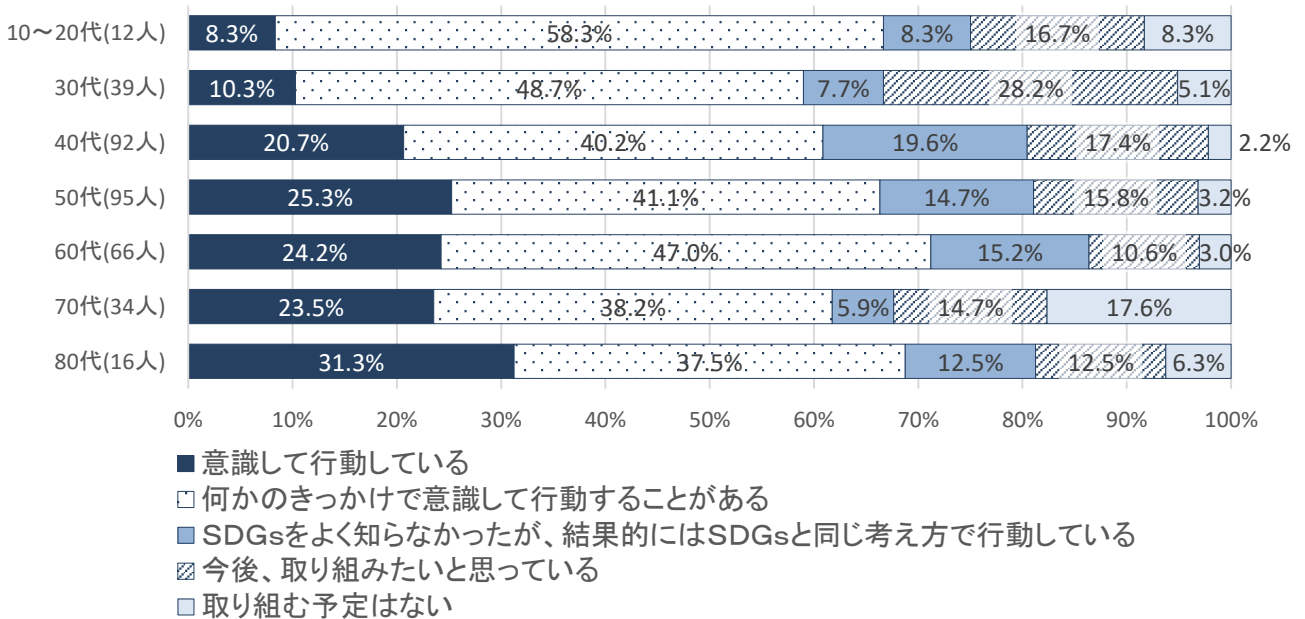
第3章 みんなの取組みについて

問14 日常生活においてSDGsを意識して行動していますか？（1つ選択）

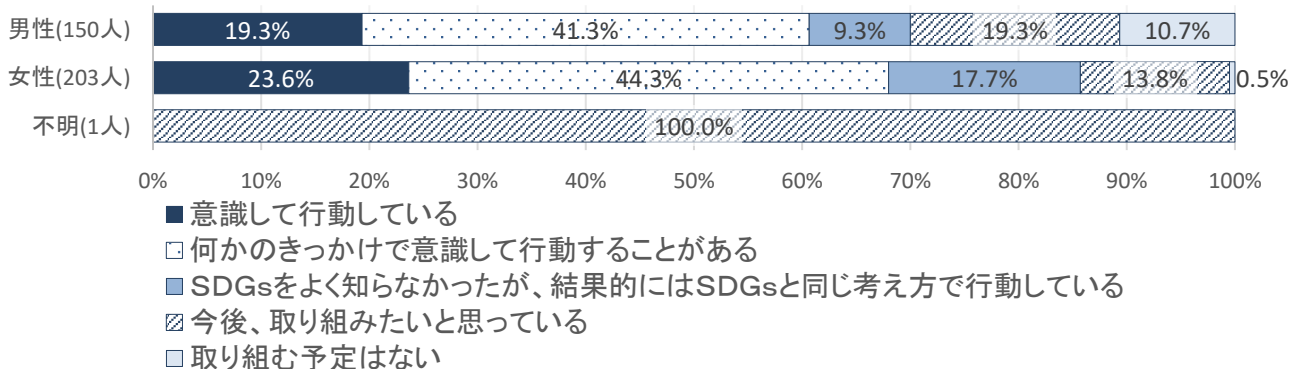
（回答者：354人）



年代別



男女別

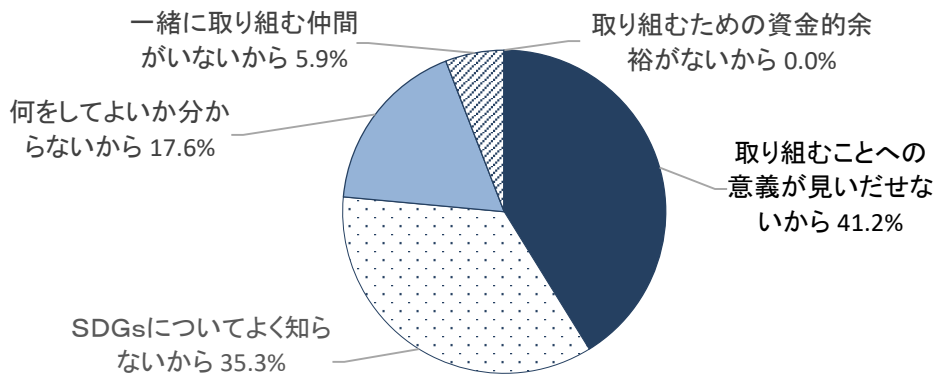


調査結果の推移をみると、「意識して行動している」「何かのきっかけで意識して行動している」の割合は微減となった。また、「今後取り組みたいと思っている」が16.4%と一定数存在し、この層に働きかける必要がある。

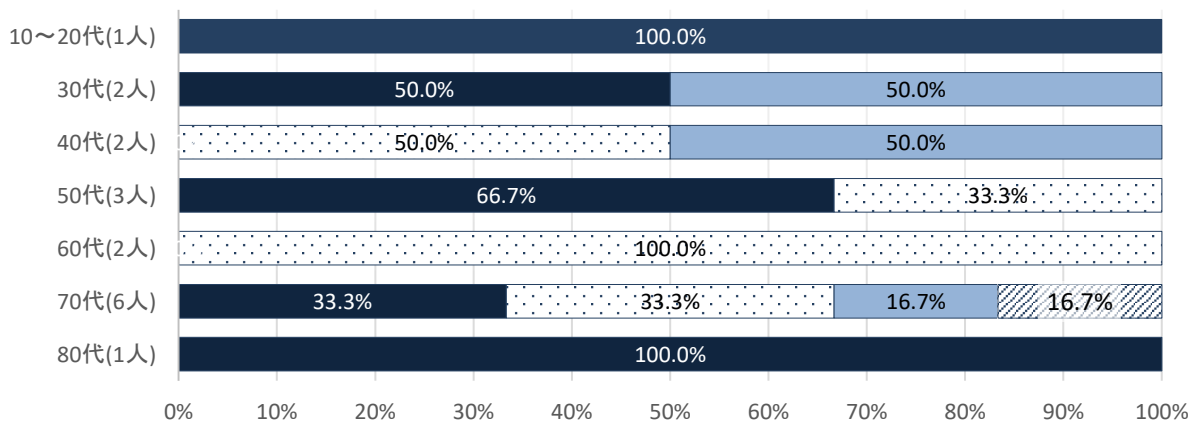
年代別では、年代が高いほど「意識して行動している」の割合が大きい。

問 15 問14で「取り組む予定はない」を選択した方にお伺いします。その理由は何ですか？
(1つ選択)

(回答者：17人)

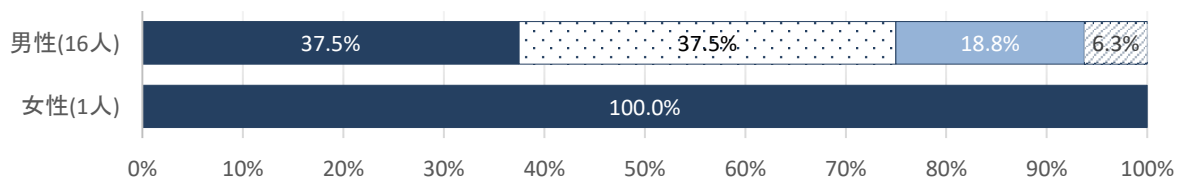


年代別



- 取り組むことへの意義が見いだせないから
- SDGsについてよく知らないから
- 何をしてもよいか分からないから
- 一緒に取り組む仲間がないから
- 取り組むための資金的余裕がないから

男女別

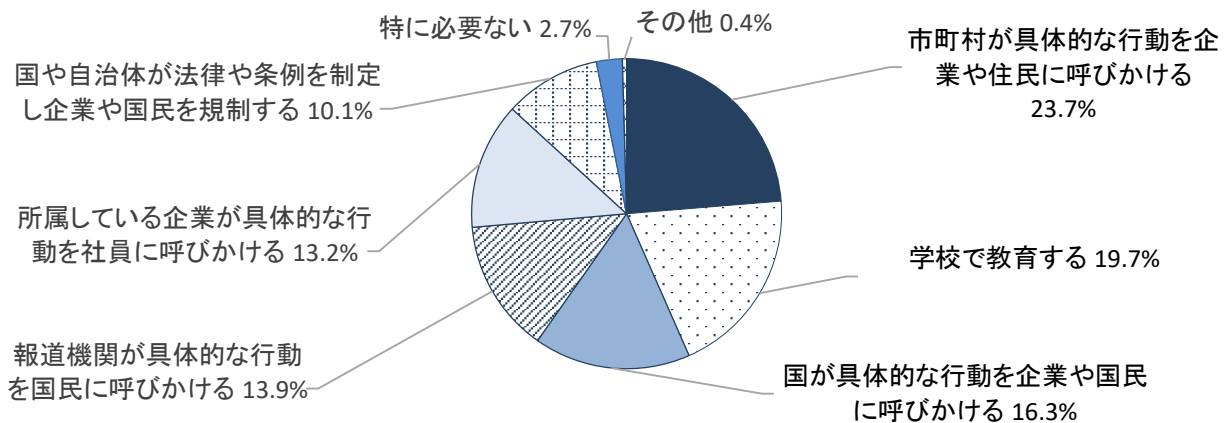


- 取り組むことへの意義が見いだせないから
- SDGsについてよく知らないから
- 何をしてもよいか分からないから
- 一緒に取り組む仲間がないから
- 取り組むための資金的余裕がないから

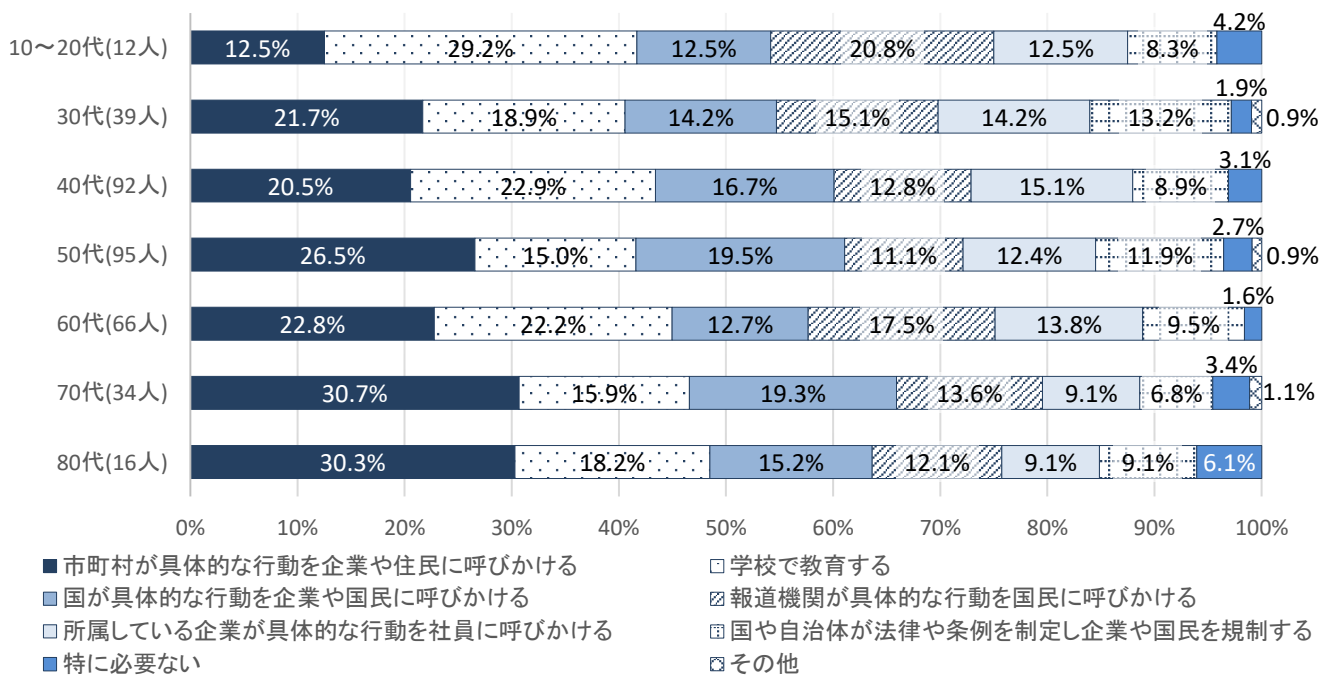
問14で「SDGsに取り組む予定はない」と回答した理由について、「取り組むことへの意義が見いだせないから」が最多となっており、次いで「SDGsについてよく知らないから」となっている。引き続き、SDGsの基礎的な内容を紹介・PRする必要がある。

問 16 あなたがSDGsの取り組みを行うとすれば何があれば行うことができますか？
(当てはまるもの全て選択)

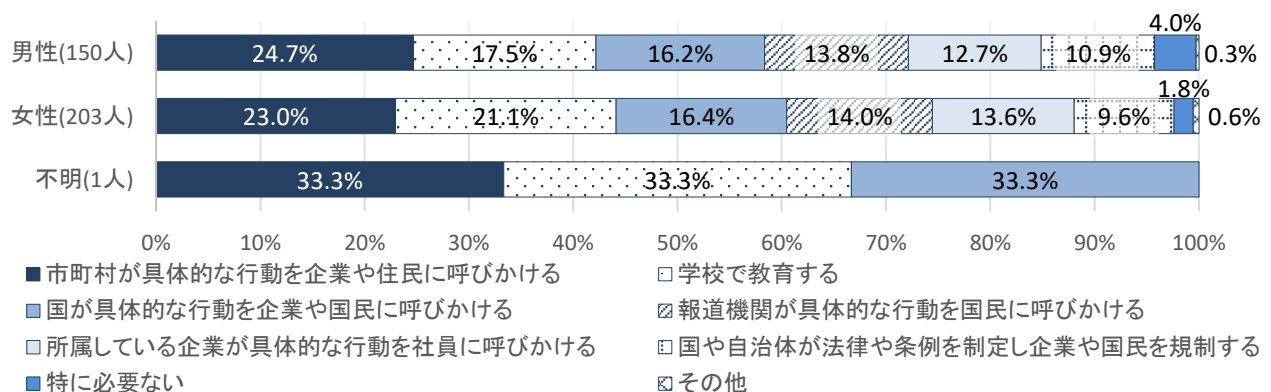
(回答者：354人)



年代別



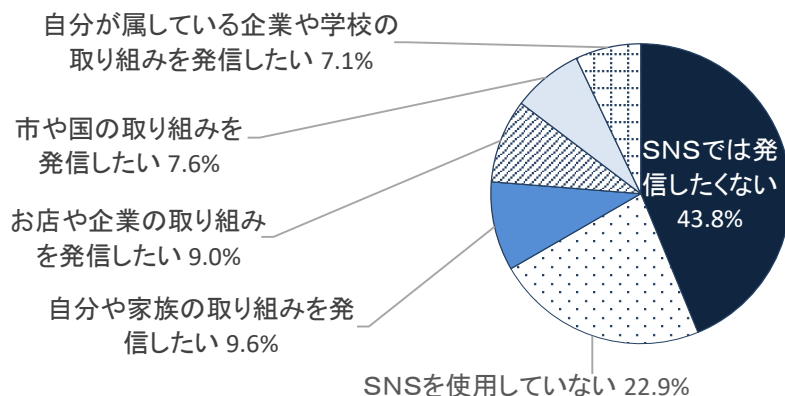
男女別



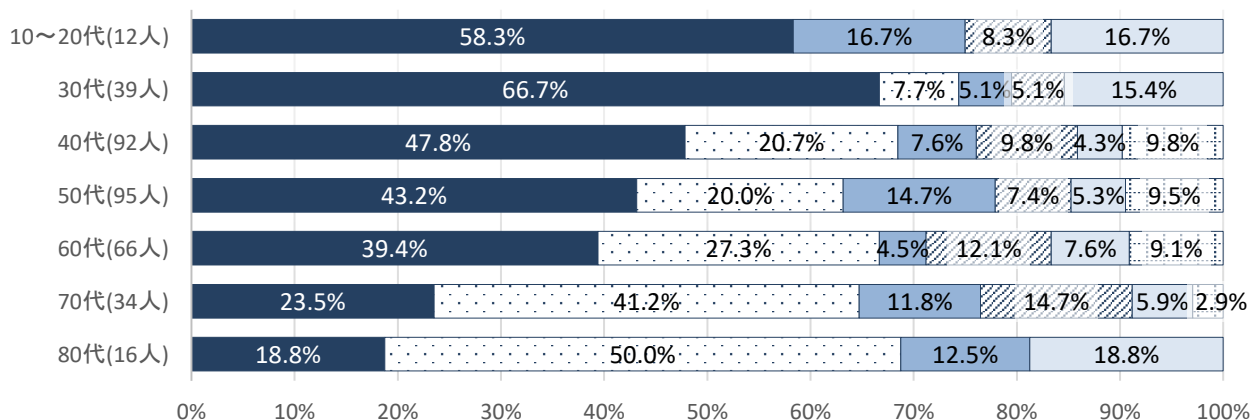
「市町村が具体的な行動を企業や住民に呼びかける」が23.7%、「学校で教育する」が19.7%を占めており、自治体に求められる役割が大きい。

問 17 SNSを使ってSDGsの取り組みを発信したいと思いますか？
(当てはまるもの全て選択)

(回答者：354人)

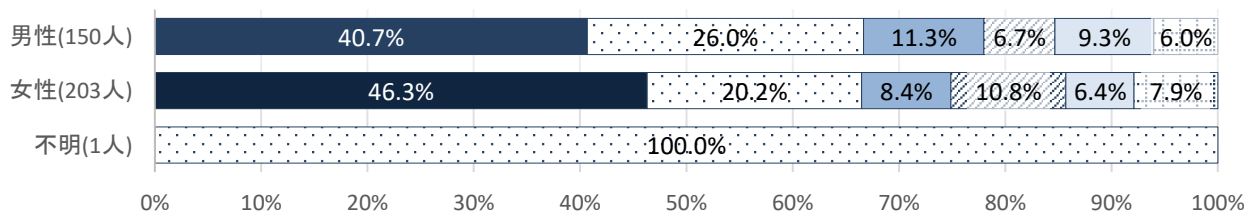


年代別



- SNSでは発信したくない
- 自分や家族の取り組みを発信したい
- 市や国の取り組みを発信したい
- SNSを使用していない
- ▨ お店や企業の取り組みを発信したい
- ▨ 自分が属している企業や学校の取り組みを発信したい

男女別



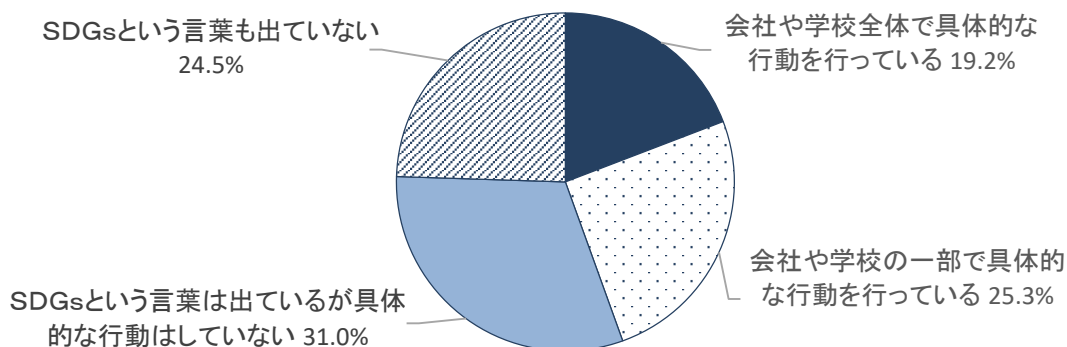
- SNSでは発信したくない
- 自分や家族の取り組みを発信したい
- 市や国の取り組みを発信したい
- SNSを使用していない
- ▨ お店や企業の取り組みを発信したい
- ▨ 自分が属している企業や学校の取り組みを発信したい

自らがSNSを使ってSDGsの取り組みを発信したいか尋ねたところ、「発信したくない」が43.8%と多数を占めた。
年代別では、SNSを使用している割合が多い10~30代であっても、「発信したくない」が多数を占めた。
男女別では、女性のほうが男性よりも「発信したくない」割合が大きい。

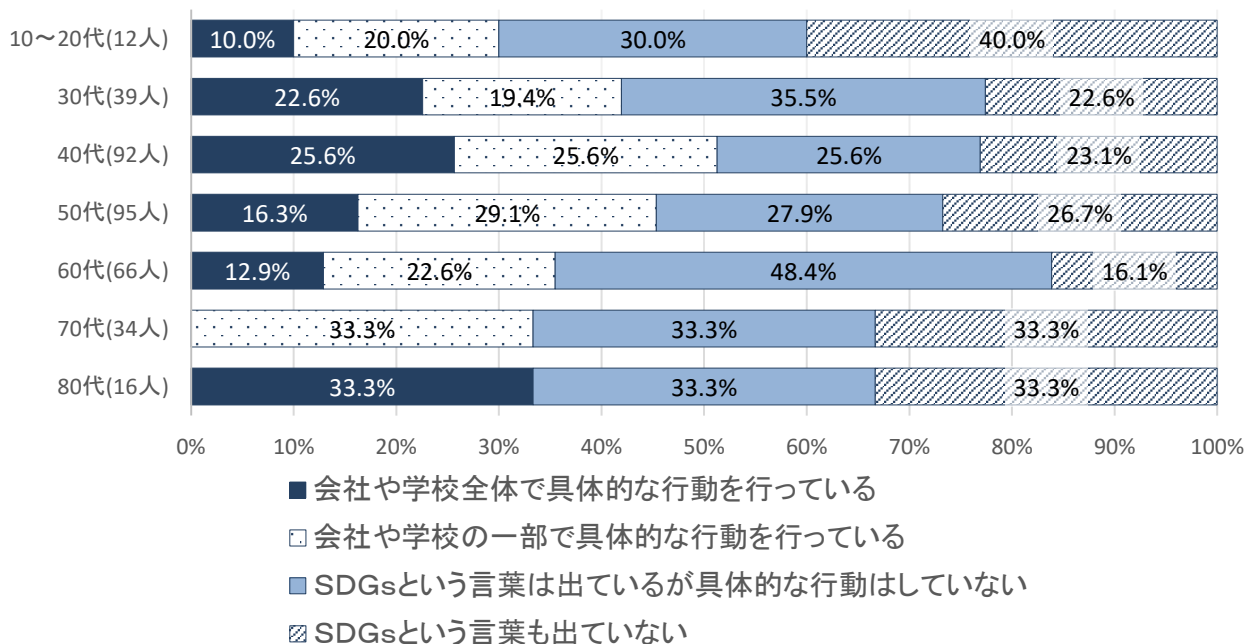
問18 あなたが所属している会社や学校でSDGsの取組みを行っていますか？（1つ選択）

※「会社や学校には所属していない」と回答した109人を除く。

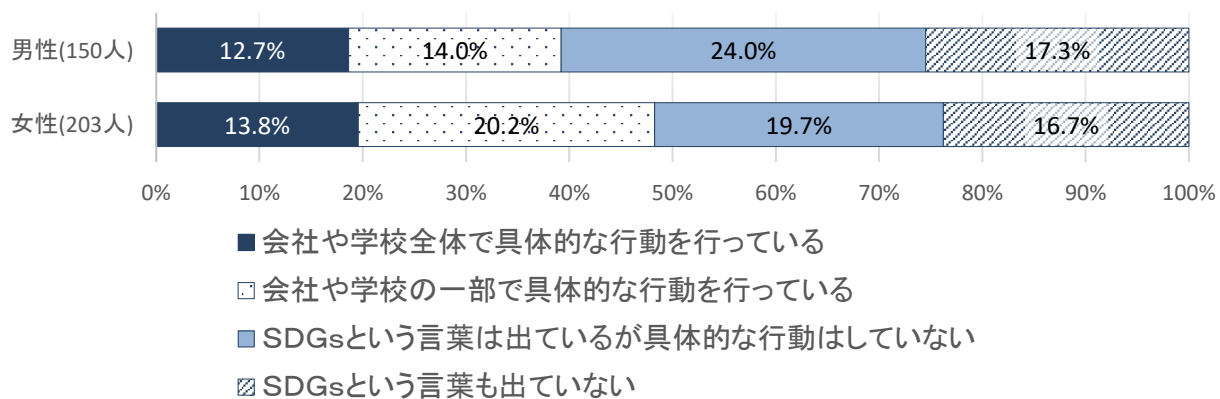
（回答者：245人）



年代別



男女別

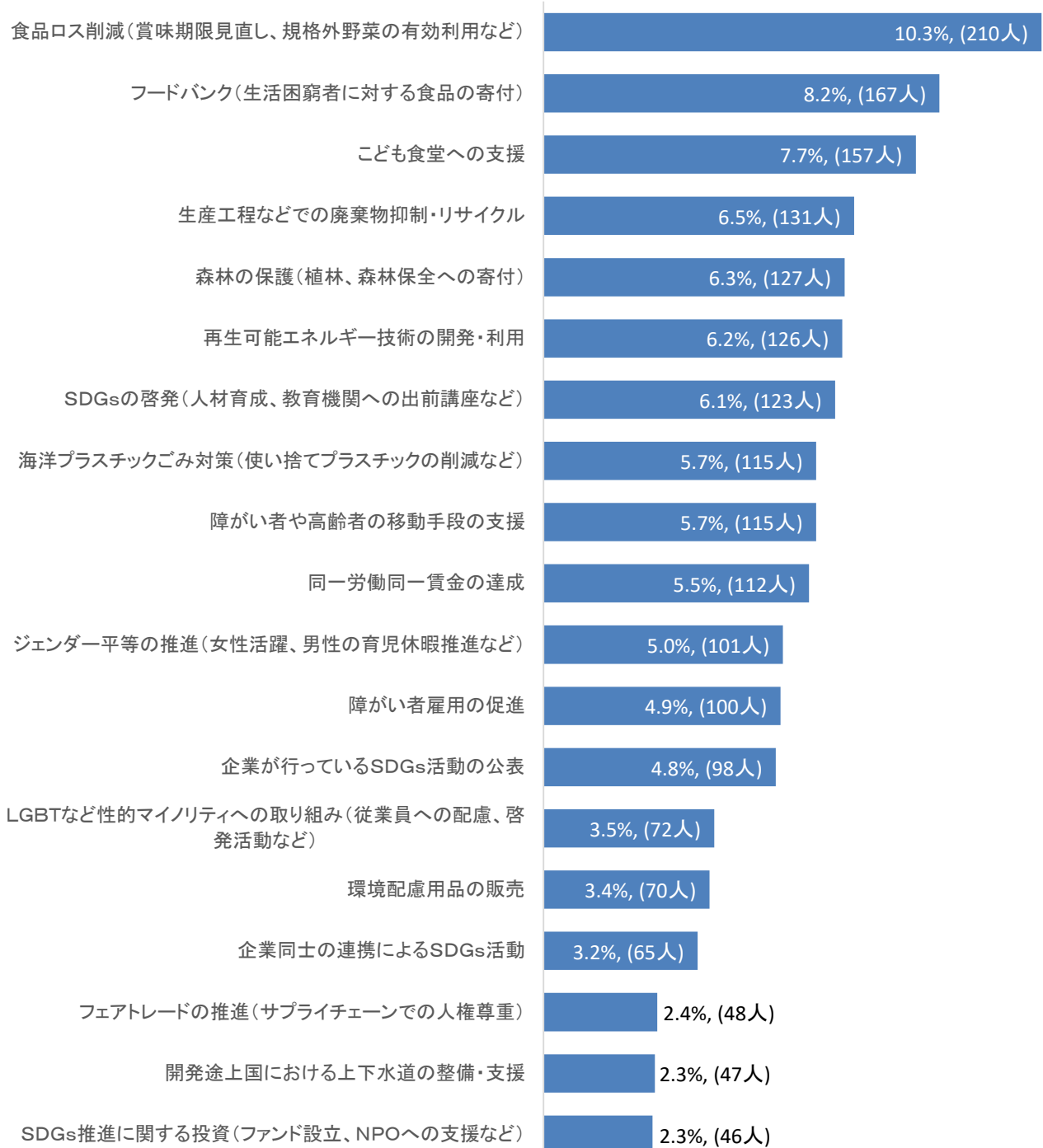


「SDGsという言葉も出ていない」と回答した割合が24.5%となっており、会社や学校におけるSDGsの取組みの先行事例を紹介したり、取り組むための手法や取り組むメリット、または取り組まないデメリットなどをPRすることが効果的だと思われる。

第4章 企業の取組みについて

問19 SDGsに関連するテーマについて企業に取り組んでほしいことは何ですか？
(当てはまるもの全て選択)

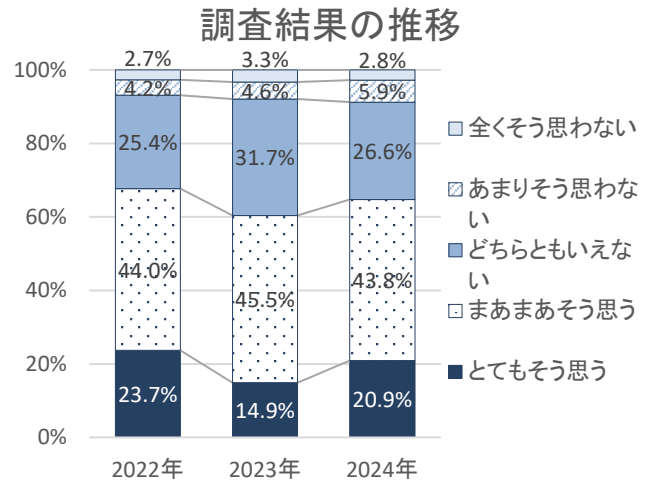
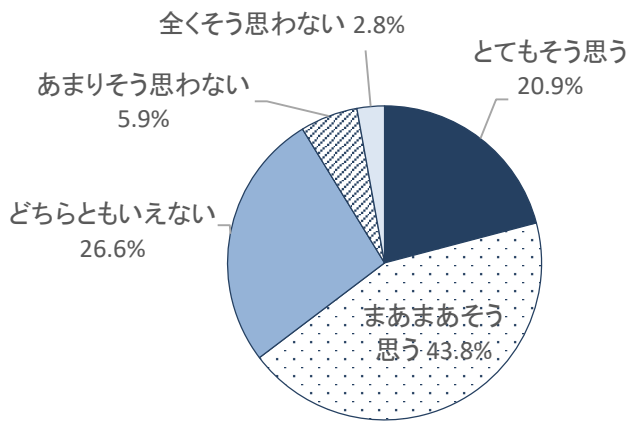
(回答者：336人)



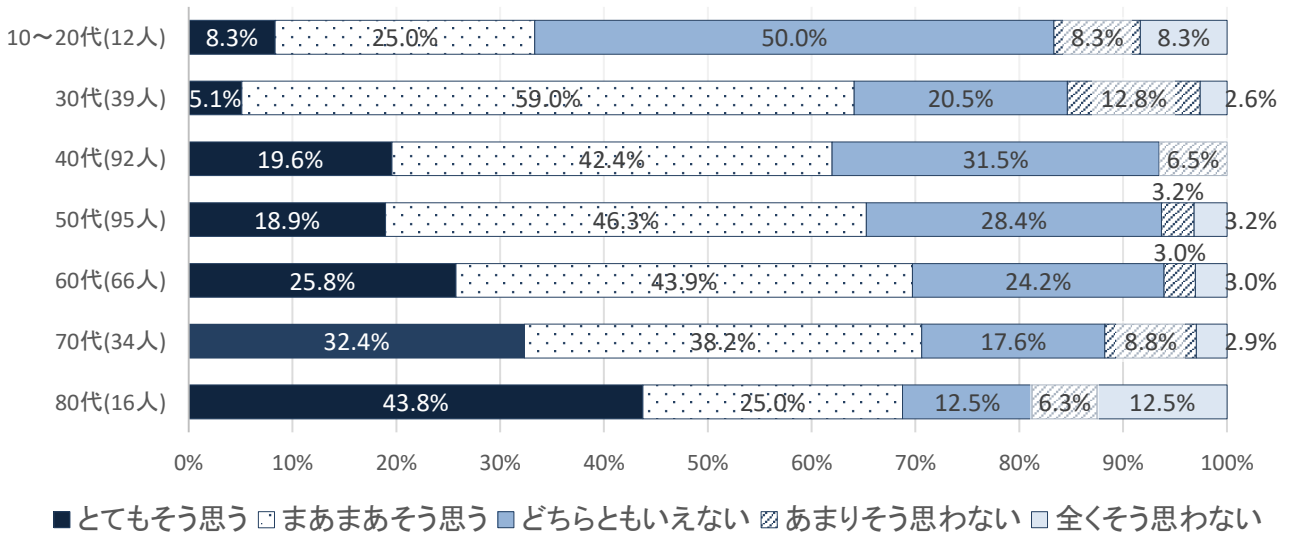
企業に取り組んでほしいテーマとしては、「食品ロスの削減」や「廃棄物抑制・リサイクル」などゴール12「つくる責任 つかう責任」に関連するものの割合が高い。
また、「フードバンク」や「こども食堂への支援」など本来の業務以外の取り組みを行うことも期待されている。

問20 SDGsの取組みをしている企業に就職したいと思いませんか？あるいは周囲に就職を勧めたいと思いませんか？（1つ選択）

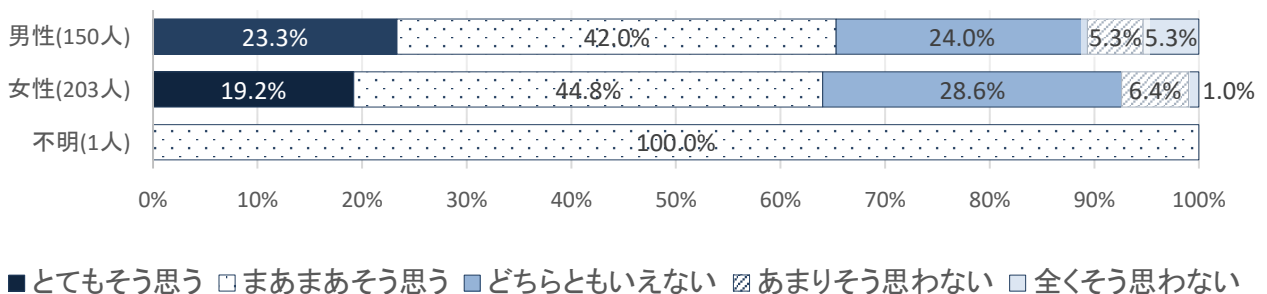
（回答者：354人）



年代別



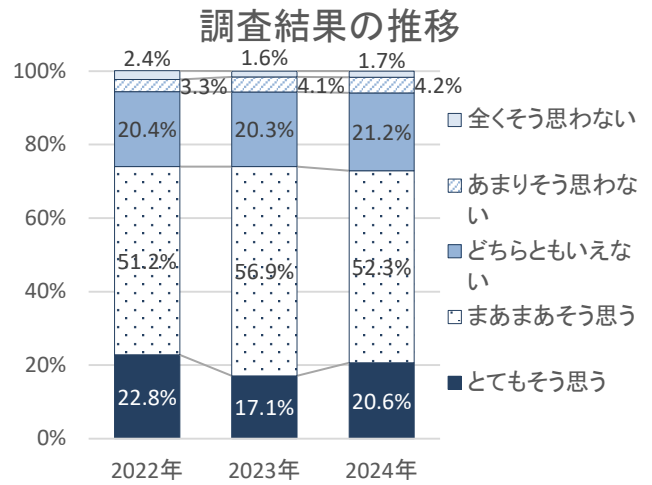
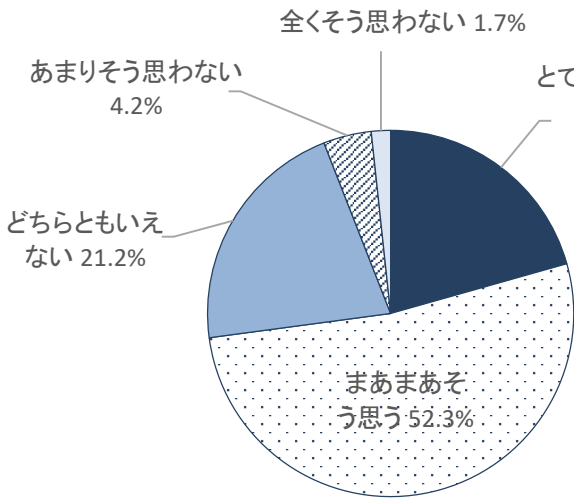
男女別



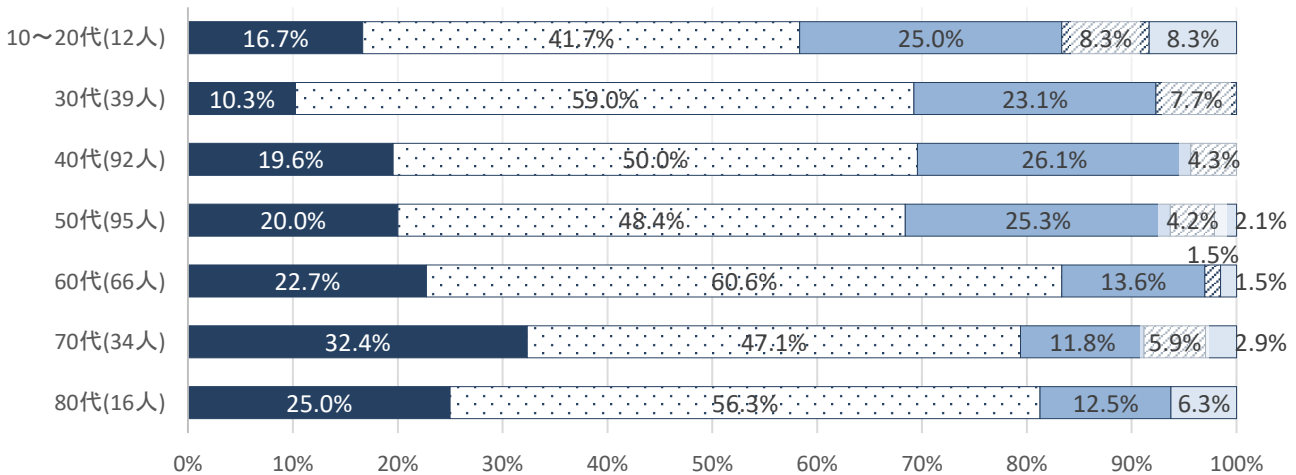
全体では、「まあまあそう思う」が43.8%で最多、次いで「どちらともいえない」26.6%、「とてもそう思う」20.9%となっている。
年代別では、10～20代の「どちらともいえない」が半数となっており、ほかの年代と比べて多くなっている。

問21 SDGsの取り組みをしている企業の商品やサービスを購入しようと思いますか？
(1つ選択)

(回答者：354人)

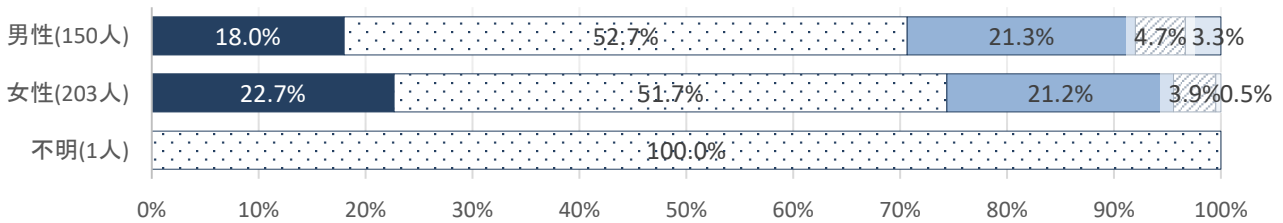


年代別



■とてもそう思う □まあまあそう思う ■どちらともいえない ▨あまりそう思わない □全くそう思わない

男女別

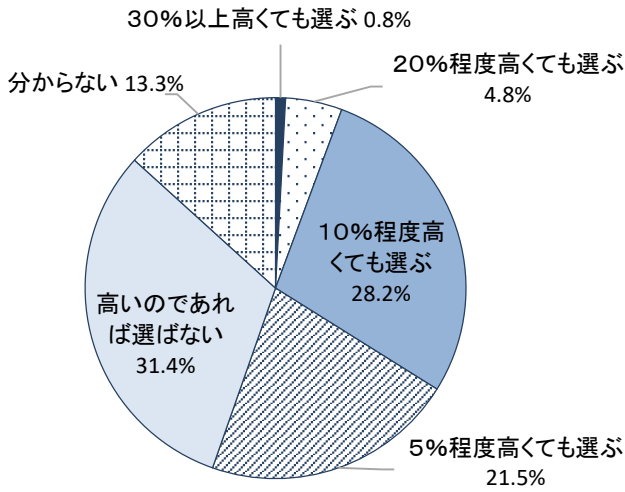


■とてもそう思う □まあまあそう思う ■どちらともいえない ▨あまりそう思わない □全くそう思わない

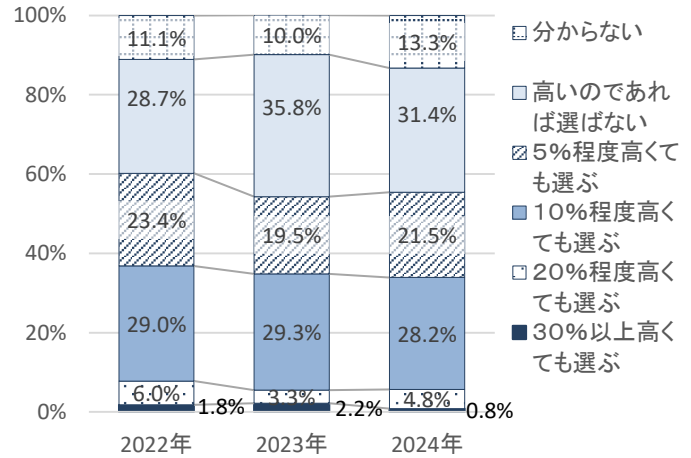
「とてもそう思う」「まあまあそう思う」の割合が合計72.9%となっており、SDGsに取り組む企業の商品やサービスは消費者の購買行動にプラスの効果があることがわかる。
3年間の推移は、大きな変動は見られない。
年代別では、60代以上の「とてもそう思う」「まあまあそう思う」の割合が大きい。

問22 SDGsの取組みを重視した商品について、価格が高くても購入しますか？
(1つ選択)

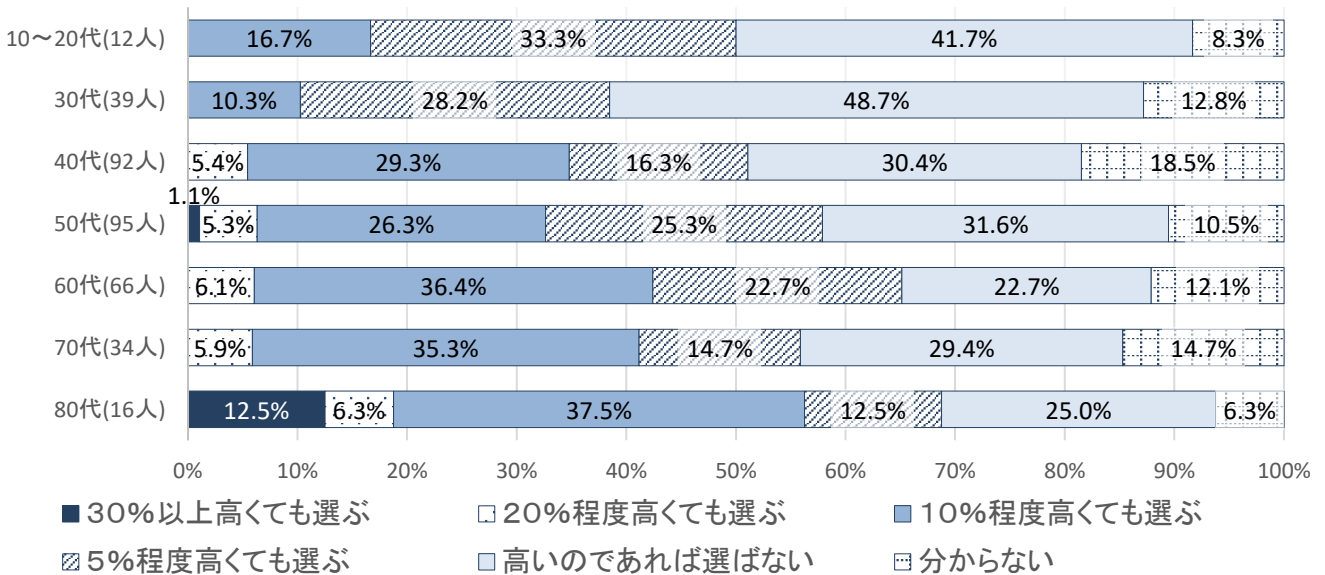
(回答者：354人)



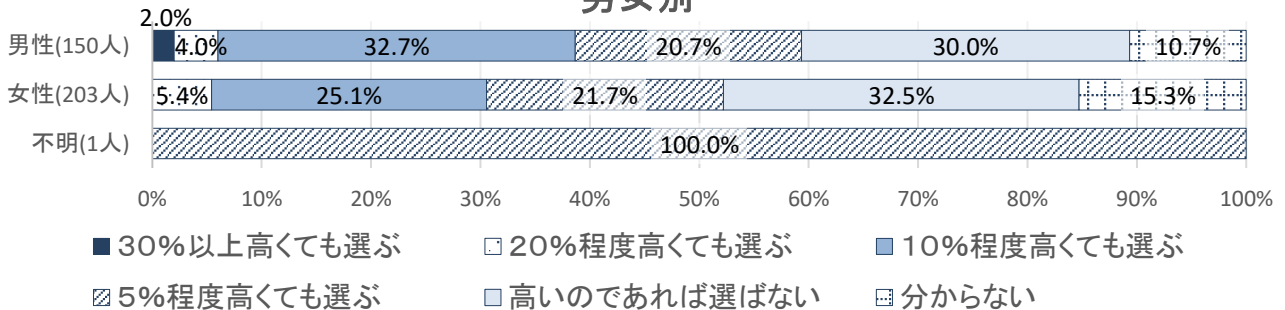
調査結果の推移



年代別



男女別



「5%程度高くても選ぶ」「10%程度高くても選ぶ」の合計が49.7%となっており、約半数の人が、価格差が5%から10%程度の範囲内であれば、SDGsの取組みを重視した商品を購入することが分かる。価格差が20%を超えると購入する人は大きく減少している。また、価格差の程度に関わらず「高いのであれば購入しない」が31.4%となっているが、前回調査時の35.8%からは4.4ポイント減少した。

年代別では、若い年代に比べ高齢層では価格が高くても購入する割合が高い傾向にある。

その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：44人）

SDGsの認識について

- 言葉は耳にしますが、内容がよく分からないのが現状です。これを機会に少し勉強しようかと思えます。（60代・女性）
- ターゲットが多いので、実はこれがターゲットと分かるような表示が身近にあれば嬉しい。（60代・女性）
- まだ馴染みがなく、正直何となくの感覚でほんの少しですが自分でできる範囲の事をしています。（50代・女性）

SDGsのためにやれること、必要なこと

- 企業はプラスチックのパッケージを削減して頂きたい。（60代・女性）
- 所属企業など身近な環境から意識を変えていくことが、推進の近道だと感じました。（40代・男性）
- 気候変動が気になります。今の所できる事は食品ロスを出さない事かなあ。（60代・女性）
- 自分でできることとして、フードロス削減と、節水シャワー、風呂水再利用をしています。（40代・女性）
- 中小企業向けのセミナー等があればより良いと思います。（40代・男性）

課題に感じること

- 具体的な取り組みについて知る機会がないので、ぜひ公民館等で学ぶ機会を作ってほしいです。（50代・女性）
- 高齢者の方にもわかりやすい日本語の説明がきちんとなされないと取り組みが上手くいかないと思う。（50代・女性）
- 物価高騰なのでSDGsまで考えて行動するゆとりがない。（30代・男性）
- 紛争が増え、SDGsの理念とは逆の方向に世界が向かっているようで不安。（40代・男性）

その他

- 国や行政が強いメッセージで罰則規定を作って取り組まないと進まないと思います。（50代・女性）
- SDGsは、自分にとって関心のある事柄が多い。でも、色んな情報に触れる中で、懐疑的な事例も多い。（50代・女性）
- SDGsは大人になってから学ぶのでは遅いです。学校教育に沢山取り入れてください。（40代・女性）
- 持続可能な開発目標はインフラに限らず、環境、人財等の社会資源においても達成する必要があります。（50代・男性）